

区民の財産(630坪・36億円)いつ活用？

「区画整理記念施設」建設プラン停滞21年

「区民の財産が長い間使えないのは問題や」「なぜ停滞しているのか」。戦災から港区を復興させ、水害に強い街の土台を造った「港地区復興土地区画整理事業」(一九四八―一九九二)の足跡を記念施設として残そうという計画が今、遅々として進まず、区民から疑問の声が上がっています。この計画は、同事業の中で生み出された①弁天町駅前の土地八百二十坪②資金二十八億円―を使って何らかの施設を建設しようというものですが、協議の場が発足して二十一年、未だに具体化されていないのです。その一方で初の「構想検討調査予算」が計上されるなど期待される状況も生まれています。そこで停滞の原因や今後の見通しについて、関係者に訊きました。

「なぜ進まぬ」「区民疑問、初の予算に期待も、真摯で集中した論議を

一九四八(昭和) 王三二年から半世紀近い歳月
をかけ、区の九割近い土地を全面「かさ」盛土・嵩

上げすることによって、戦災で焼失した市街地を整備した「港地区復興土地区画整理事業」こ

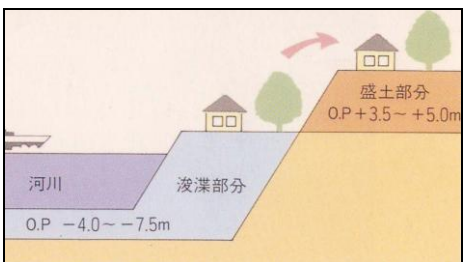
の世界にも類を見ない大事業の様子を克明に知る人は年を追って少なくなっています。それだ

けに、この港区が誇るまちづくりの歴史を記念碑的建造物として次世代に残すことは、区民にとって大いに意義あることとされています。

◆壮大かつ複雑な事業

では、この「港地区復興土地区画整理事業」とは何だったのでしょうか。

目的 港区はもともと低地帯であった上に、



→全面2mの盛土が区のお半で実施され、世界史上でも画期的といわれる「港地区復興土地区画整理事業」。写真上はサンドポンプから噴き出される土砂(昭和20年頃)、下図は全面盛土方式のイメージ(いずれも港区役所新庁舎竣工記念誌(1999年発行)から)

工場による地下水くみ上げなどで地盤沈下が進み、戦前から台風や高潮による被害が絶えませんでした。そこで、第二次世界大戦で破壊された市街地の復興計画を大阪市が策定する際、港区では①区画整理②高潮対策③大阪港の内港化という三つの目的を同時に追求することになったのです。

規模 同事業では、港区の約九割に当たる約六九〇haの広大な土地を全面「いも盛土・高上げ」しました。期間は一九四八(昭和二十三)年認可から一九九一(平成四)年終息まで四十四年間。事業に伴う建物の移転は七三九戸。完成道路延長約一〇km。全国はもとより世界的に見ても、これほど大規模な区画整理事業はありませんでした。

特徴 最大の特徴は、全面盛土方式。①高潮対策に最も有効②戦災直後で移転を要する建物が少ない③大阪港内港化で安治川の底を浚(うみ)えた土砂を利用できる—などの理由で採用されました。実行段階では当然、換地(土地の交換・分合)や建物の移転、それに伴う利害調整の必要などが生じました。これら複雑極まる問題を

↑「港地区復興土地区画整理事業」の工事風景。写真上は港崎付近の市電軌道の高上げの様子(昭和32年頃)、同下は盛土後の路面高に合わせた下水道マンホールの築造風景(いずれも港区役所新庁舎竣工記念誌から)



協議する場として一九五六(昭和三十一年、選挙で選ばれた地権者(土地所有者)と借地権者(代表 十一人)による「港地区土地区画整理審議会」が設けられました。同審議会は十四回この計画変更にも対応しながら、事業の円滑な進行に力を注ぎました。この中で、土地所有者が「港区の将来のために」と自分の土地を公共施設などに提供した土地は四五割に上る(国)

われており、港区復興にかける当時の区民の心意気を測るバロメーターとされています。

◆1992年から協議

文字通り区民の総力で完成した同事業。その記念施設を造ろうという計画は、同事業が終わった一九九二(平成四)年に始まりました。「次世代へまちづくりの歴史を継承する」と意義づけられ、そのため、同事業の中で確保されたつまり、換地などの過程で、区民の共有財産とされた①弁天駅前約六百二十坪(約二〇八五平方メートル、磯路一・七七)②資金約二十六億円を活用するといったものでした。そして、区画整理事業の中心を担ってきた「港地区土地区画整理審議会」がそのまま「港地区土地区画整理協議会」へと移行し、実施主体である大阪市に協力する(意見を述べる)形で検討を進めることになりました。

◆コンパ不調也

その後、具体化への議論は進み、十年後の二〇〇二(平成十四)年一月には建設事業者を決める「コンパ(提案競技)」も始まりました。が、結果提案はなへ、「コンパ」は不調に終わりました。

その後、「コンパ」不調の原因を検証し、新たな「コンパ」に向けての準備として、二〇〇六(平成十八)年七月には事業主体の構成や施設の内容、運営方法などについて専門家の提案を公募。二カ月間に九社から十一件の提案があり、それらを巡って議論が交わ^かされました。

が、二〇〇九(平成二十二年)十一月までに何度か会合が持たれ、その間に新たな提案①市の所有・運営による本格的な演劇が可能な多機能ホール②民間事業者の所有・運営によるファミリーマンション③NPO法人の所有・運営によるワンルームマンションがビジネスホテルの三つを複合させた施設を建設してはどうかが出されるなどしたもの、やはり具体化には至りませんでした。またこの間に協議委員は当初の二十一名が死去や転出で十三名になりました。

◆議論続くも具体化されず

その後、同協議会は二〇一〇(平成二十二年)七月から今年四月までに計七回、各回七〜九名の委員の出席、全回に港区長のオブザーバー出席も得て開かれました。その中では「早期整備を第一として、それまで検討の軸に据えていた

演劇ホールにこだわることなく、時代に即したそれ以外の施設の可能性も含めて検討しよう」と舵が切られ、①区画整理事業の記念・モニメントとなる②市民協働に資する③港区民に役立つ利用しやすい施設に④環境面や経済的リスクや防災面にも配慮する一などをポイントに検討が進められました。そして今年四月十八日の会合では「今年度市予算で構想検討の調査費として六百万円が計上されたことが市から報告され、それを活用して調査を実施し、「今年度中に構想案をまとめる」とこの確認がなされました。

◆期待できる新たな状況も

こうして結果的に、区画整理事業で生み出された土地と金は、活用されなくなりました。二十一年が過ぎたこととなります。が、その一方で、港区と同様の計画に取り組んだ大正区では一九九九(平成十一年)、「大正地区復興土地区画整理事業」で生み出された財産を活用して「アゼリア大正」スポーツ施設と文化ホールを合体した施設が完成し、市民に利用されています。

現在、①検討・調査のための予算が初めて組まれた②公募区長になって区役所の関わりとの比

重が増した一など「今度こそ具体化されるのではないか」と期待できる新たな状況も生まれていますが、過去にも、「コンペまで実施しながら実現には至らなかった（二〇〇一年）などの例もあり、実際にこの計画が実現するといった見通しは、今のところ不透明です。そこで、この現状について関係者に訊いてみました。

◆市の担当部署に訊く

まずは、この計画について区民から上がっているいくつかの疑問について、七月、市の担当部署である「大阪市都市整備局企画部区画整理課拠点開発事業担当」の布川課長に訊きました。その際、各回答の前提として同課長は、「過去四十五年にも回り、市民と行政で協力し進めた全国的にも比類のない土地区画整理事業を記念する施設を建設する」という市の基本姿勢は変わらない」と強調しました。

①港区と同様の計画に取り組んだ大正区では既に施設が完成し、市民に利用されています。港区だけが進んでいないのはありませんか？
区よりの事情は異なります。港区ではこれまで演劇ホールを建設するといったことを目標として

検討して参りましたが、社会情勢等の大きな変化などが実現に至らなかった理由になるのではと考えます。ただ、今年度に構想検討の予算が付き、時代に即した、皆さんから言はれる施設を検討していきたいと思っています。



→「港地区復興土地区画整理事業」記念施設の建設が予定されている弁天町駅前の土地（磯路1-7）。21年間も空き地状態が続いている

②大阪市の人員削減の中で、この計画の担当部署の人数が減られ、少人数・多忙で手が回らないといったことも停滞の原因の一つになっているのではないですか？

大阪市ではどこでも業務効率化の中で人員削減を遂行しており、手が余っているという状態ではありませんが、この業務にかかる人員数は過去に比べ大きく変わっていません。それに、人員の多寡に^た関わらず、この事業は遂行していかなければならないと思っています。

③土地八百三十坪と資金二十八億円は使える状態にあるのですか？ 財政難の市が何らかの形で流用しているのではないかと区民の声も聴かれます。

土地は「大阪市の用地」として登記されており、資金については「大阪市財政調整基金」（一千百十三億円＝平成二十四年度決算見込み）の一部として積み立てられています。

④この問題を話してこられた協議会の在り方に目を向ける区民もいますが一

協議会の皆さんは、「港地区土地区画整理審議会」委員の時代から市に対して意見を頂いてき

た、当時の事を一番よく存じの方々です。また、さらに二十年間の打ち合わせ経緯も踏まえ、市として施設案を取りまとめる際に、まず最初に意見を頂く必要があると考えており、実際に厳しい意見も含め色々な意見を頂いています。ただし、事業の実施主体は大阪市であり、意見を頂いた上で、例えば「コンペの実施等を市として判断し、事業化を検討してきました。協議会の皆さんやその協議の在り方に原因があったところ」については決してありません。

⑥なぜ停滞の原因をいっしょに考えていますか？

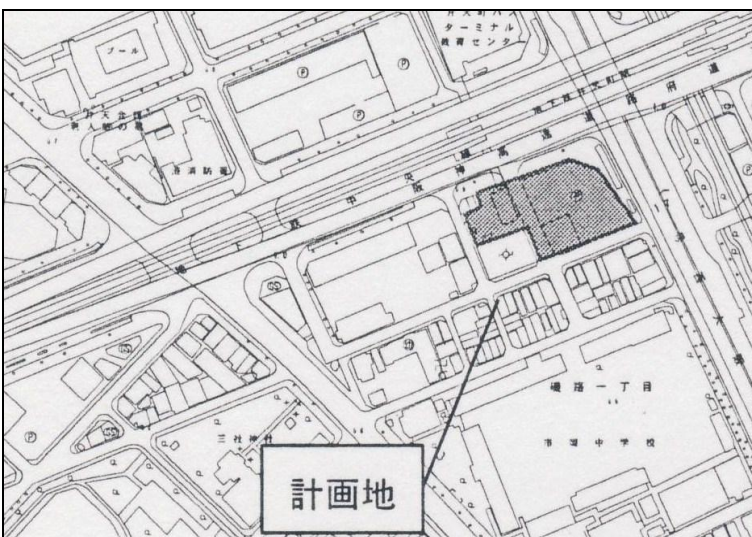
様々な要因があるのではと考えられます。バブル時代に検討が始まり、演劇ホールの建設を目標に長く議論がされてきましたが、経済状況の変化により、箱物の建設は採算面で難しくなってきたこともその一つで、他にも挙げられるでしょうが、今年度、構想検討調査に進み、停滞を解消していきたいと思っています。

⑦今後の具体化の見通しはありますか？

今年度、構想検討調査に入ります。この中で、市として構想案を策定していきたいと考えています。

←「港地区復興十地区画整理事業」の記念施設

（弁天駅駅活性化施設）の位置図（上）が北



①区民の関心を高め、具体化を促進するためにも、今後、広く一般区民や報道機関に検討状況を公開していくことが必要と思われますがー

今年度、構想案ができた所定の手続きを踏まえ、公開していくようになります。その際

港区民の方の意見をどのように把握するかなどは、今後、港区役所と相談していきたいと考えています。

◆港区の担当部署について

次に、公募区長が任命された昨夏以降、この問題についても主体的に関わりつつある港区役所区政統括グループ企画調整担当の三原課長に訊きました。

①区民の財産が二十一年間も放置されている現状とその原因をいっしょに考えていますか？

厳しい社会経済状況のもと、当該事業の趣意に適い、かつ、長期的・安定的な運営が可能な具体的な施設の整備を見込むことが困難なため、事業化に時間がかかっていると考えています。

②公募区長になる前後ではこの問題への区役所の関わり方に変化がありますか？

以前は、区役所と本庁部局との役割分担の中で、区役所は地域と区画整理事業を所管する部局の「つなぎ役」的な役割を担っていました。が、（公募区長が任命された）昨年八月以降は「シティ・マネージャー」として、この問題についても、まちづくりを主体的に進める立場から関

わっています。

◎その後、この問題に対し、当該区役所として
さまざまな交渉と闘いはありました。

協議会の皆さんとの議論や今年度実施する「構
想検討調査」を踏まえ、都市整備局と連携し、港
区のまちづくりについて施設について整備す
るため、施設の内容や事業手法、スケジュール
等について検討を進め、早期に事業化できるよ
う努めたいと考えています。

◆団体役員・Aさんの話

次に、この問題に強い関心を持ち、これまで
に何度も市や区の担当部署、市会の当該委員会
区選出の市会議員などに「早期具体化」を働き
かけてきた団体役員のアさんに訊きました。A
さんの意見は主要次のようなものでした。

①何よりも区民の財産を二十一年間も放置して
いることが一区区民として許せません。

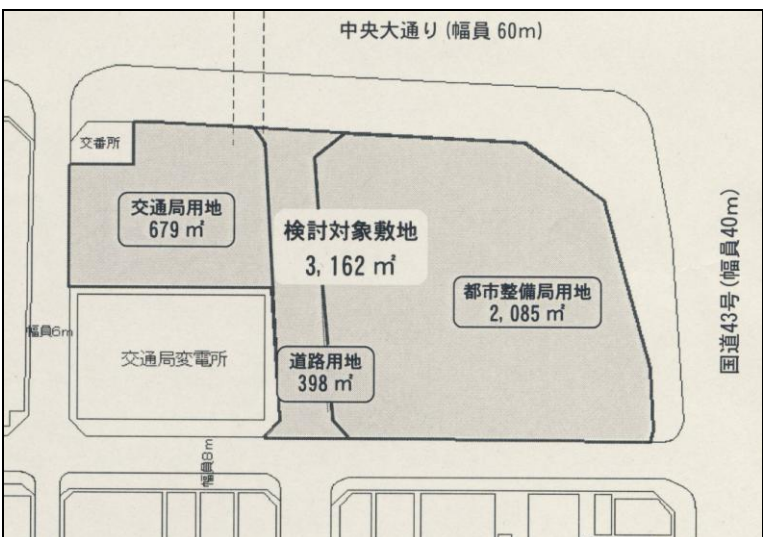
②広大な土地の放置は経済的に巨大な無駄・
浪費であるだけでなく、安全面や環境上でも問
題あります。

③また二十八億円の資金を長期間ただ寝かせ
ているのも無策であり、少しでも増やせる方策

を考えられないのでしょうか。

④実施主体である大阪市の責任は重大であり、
担当者が二三年で一旦その交わることも停滞
に拍車をかけているのではないのでしょうか。

⑤昨夏から公募区長になり、この問題での区



→「港地区復興土地区画整理事業」の記念施設
(弁天町駅活性化施設)の敷地図(右)が北

の権限が増したので、担当者には気合を入れて
取り組んでもらえるを期待しています。

◎さらに、港区選出の市会議員は、いつの間
題にこそ党派を越えて力を合わせるべきです。

⑦とはいえ、この問題を本当に前へ進めると
めには、何よりも区民の関心の高まり、突き上
げこそが力になります。港新聞は三年前にこの
問題を取り上げてくれましたが、何度でも取り
上げ、区民の関心を呼び起こし、この貴重な区
民の財産を一日も早く有効活用できるようなキ
ャパンを張ってほしいと期待しています。

⑧個人的には、あの土地と資金を活用して、
港区民センターに替わる区民の本格的な文化拠
点を造ってほしいという希望を持っています。

◆港区民・Bさんの話

次に、港区に生まれ育ち、親が区画整理事業
での換地や移転に関わり、自らもこの問題に関
心を持ち続けてきた区民のBさんに訊きました。
Bさんの意見は主要次のようなものでした。

①そもそも「港地区土地区画整理審議会」がそ
のまま「協議会」へ移行したという出発点が問
題。一旦解散し、新たにメンバーを募集・選出

べきでした。今からでもそうするというのが停滞を打破する第一歩だと思います。

②そして、協議委員の身分と権限をはっきりさせ、年一回程度の会合の頻度や在り方も再検討する必要があるのではないのでしょうか。

③その上で、この協議会の議事内容をポイントだけでも区民に公開して透明性を確保し、区民の感想や意見やアイデアも採り入れて風通しを良くし、それこそ「市民協働」で実現へ取り組むべきだと思います。

◆その他の区民の声

その他、関心ある港区民からは、次のような声が聞かれます。

①早く具体化されなければいついつものではありませんが、大切な区民の財産をいつまでも放っておくのは感心できません（40代女性）。

②建設内容については収益性や文化性も大事ですが、港区の歴史的事業を次世代に伝えることを一番のポイントに、例えば区画整理事業の仕組みが子供にも解るようなジオラマ展示なども含めて検討してほしいです（60代男性）。

③区民の関心を高め、区民の意見や提案を活

かすためにも、協議会での議論内容を区の広報などで公開してほしい（30代女性）。

④初めて予算が付いたのは嬉しい。今度こそはと期待しています（70代男性）。

◇

以上、行政の担当部署の話聞いた限りでは、この計画の停滞の主要な原因は経済情勢などの「外因」であり、それを踏まえて現在は「構想検討調査予算」の確保や公募区長による区役所の姿勢の変化など、計画の具体化へ有利な状況が生まれていると考えています。

それに対して港区民は「今度こそ」との期待を抱く一方、二十一年間もの停滞にいいよ厳しい目を向け始めています。確かに、このままの状況が続けば、何より、苦労した先人に申し訳が立たず、歴史的な港区の区画整理事業の意義と誇りを次世代へ継承することもおぼつかないのではないのでしょうか。そこで、この問題について区民が関心を持つべき、また考えを述べきポイントと思われる点を次に示しておきます。

時間 なぜこんなに時間がかかっているのか、いつできるのか（実現に向けて明確な期限や工

程を設定すべきではないか）。

内容 何を目的にどんな物を作るのか（マンションや文化施設もいいが、区の歴史的事業を後世に伝えることを主眼にすべきではないか）。

運営 建設したあと誰が運営するのか（市が、区が、区民が、団体か、企業か）。建設費と運営費のバランスをどうするのか（全部建設費につき込むのか、運営費をいくら残しておくのか）。運営の中で得られる収益（ホール使用料、入場料など）をどう扱うのか。

協議 これまでは誰がどんなふうに話してきたか（実施主体である大阪市の主導性は発揮されてきたのか、協議会委員の立場や法的位置づけは明確だったが、会合の頻度や方法は適切だったか）。これからどんなメンバーがどんな形で話し合っていくべきか（協議会委員の補充や刷新は必要かどうか、区役所はこれまで関わるべきか、議論内容を公開すべきかどうか、一般区民の声も採り入れるべきではないか）。

——以上をポイントにした真摯で集中した議論、そしてこの問題に対する区民の関心の高まりが、これまでも増進して求められます。

あ さ や け

「これで全貌か?」「あと野菜サラダ」。妻とのそんなやり取りで筆者の夕食は始まります。胃腸が弱いのでまず全量をつか、その腹もりで食べ始めようと思うからです。「えらい大層な」思われるでしょうが、何かに取り組む場合最初にその全体像を捉えておくことは食に限らず肝要です▼ところが個人の食ならいざ知らず、国民の命と安全に関わる大問題でありながら全貌が国民に知らされないまま泥縄の対応が続けられているのが福島第一原発の事故処理。原子炉が三つも溢れ落ち、未だに現場に近づけないで済まず、全ての作業を遠隔操作で行ない、再び爆発の危険もあるといか。「も拘らず政府は原発輸出を『成長戦略』の柱に据えてさえいます」しかもこの『日の丸原発』、広げれば広げるほど、技術の根幹を握るアメリカに金が転がり込み、その一方で、ひとたび事故が起きれば責任は全米の日本企業が担わされる仕組み。「日米原子力協定」という屈辱的な約束の産物で

す。国民には事故ばかりか原子力行政の全貌も知らせず、ただただ米政府の言うままに突っ走る首相。「あんたはどこの首長?」「給料はどうか?」「ほんまに愛国者?」「連続フェイスでもぶつけたくなります」▼「とぼへ左様に、全貌を知らない、知らせない」といことはどれほど恐ろしいことが、ちょっとはお分りになったでしょう。だから今夜も言うのです。「これで全貌か?」と。けど、たまにこんな言葉も返ってきます。「全貌全貌で、分かっているがな、うるさいなあ」。あんまり言い過ぎのものもきえませんが…。

× × × × × ×

「つまりどっちがいいんですかね」とは夏目漱石『坊っちゃん』の青年教師が発する台詞。下宿の婆さんに、教頭の赤シャツと数学教師の山嵐のどちらが正義なのかを尋ねたら「つまり月給の多い方が豪いのがやろうがな」と返されて「これじゃ聞いたって仕方がない」と諦めるのですが、同じような問いを発したくなる場面が最近のエジプトでありました▼イスラム系の大統領を誕生させた選挙で、それを追い落とした大衆デモ。つまりどっちが正当なんでしょう。

かね」と。選挙もデモも人類が生み出した最高の意思表示手段。にも拘らずその両輪が互いに逆方向へ回り出したため混乱が起きたのです。

それでも人間社会はいずれかを選ばなければ前へ進めないよつで、エジプトでは結局デモの声を聞き入れましたが、それが国民の幸福に繋がるかどうかは判りません。かの坊ちゃんも山嵐と組んで赤シャツをやっつけ鬱憤を晴らしたものの、田舎の学校の体質を根本転換できなかったよつに…▼聖書には「自分の歩みを導く」とさへその人に属しているのではない」とあります。確かに人類が良かれと積み上げてきた科学や制度が自らの幸福に結実しないどころか、混乱と不幸を拡大再生産してきたのは紛れもない事実。文明発生から数千年、奴隷制から共産制まであらゆる政治制度を試みてきた人類は今こそ発想を根本転換し、自分たちは神に創造された存在としてその導きのもとに安んじ安心の歩みを始めるのか、それともあくまで自らの進歩の頂点として独力で試行錯誤を続けるのか、「つまりどっちがいいんですかね」と自問する時に来ているのではないのでしょうか、デビ。

大阪港駅の船員病院側に

エレベーター設置決まる

住民・病院利用者らの願い結実



→住民や病院利用者の声を受けた粘り強い運動
が実り、エレベーターが設置されることにな
った地下鉄大阪港駅東出口（船員保険病院側）

「地下鉄大阪港駅の船員保険病院側にエレベーターを設置してほしい」という住民や病院利用者、高齢者や障害者の願いが実現することになりました。築港地区の住民グループである地下鉄大阪港駅の東改札付近（大阪船員保険病院側）にエレベーターの設置を求める築港の会（山田博之代表）の質問に対する大阪市交通局の回答（八月）から明らかにしたものです。

◆国の補助が受けられる

この回答は主要次のような内容でした。

①昨年十一月中旬に「国と協議したところ、国の今年度予算から補助を受けられるようになり、今年度予算市会（今年三月）でも承認されたので、大阪市の予算として確定した。

②エレベーターを新設する場所は同駅東側階段の六号出入口付近（船員保険病院側）となるが、詳細な場所、設計の予算額、工事予定金額、完成・供用開始時期などは現時点では未定。

◆94年から設置の予定

この問題については、同駅の海遊館側にエレベーターが設置された一九九四年十二月以来、エレベーターのない船員保険病院側の利用者や

高齢者・障害者から「四十数段ある階段の昇り（のぼ）りが辛い」「車いす利用者のことを考えて」などの声が繰り返し上がっていました。

こうした声を受けて同会は二〇一二年八月と二〇一二年九月に要望書と署名簿を提出。国勢調査結果（同駅周辺の六十五歳以上人口は、エレベーターがある一号出入口付近の百二十五人に対し、エレベーターがない二六号出入口付近は十倍の千五百九十三人である）を示して設置を求めましたが、同局は「国からの補助を受けることが難しい中で非常に困難」と回答。

翌月の同局との協議では、患者代表が「健康者なら何でもない階段の昇り降りが高齢者や病弱者には非常に辛い」との患者・家族らの声を紹介すると共に、同局発言の矛盾点を突くなどして設置を強く求めましたが、やはり不調に終わりました。同月にはまた、同会が提出していた陳情書が市会交通水道常任委員会で論議されましたが、採択には至りませんでした。

こうした中でも同会は引き続き要求を続けてきましたが、そうした粘り強い運動が力となり、今回の回答が引き出されたものと思われま

働く者の医療を再び

苦節22年「南労会闘争」報告集会



→22年間を振り返り決意を固め合った「南労会闘争勝利報告集会」7月13日、港区民センター（写真左は決意表明する小松泰吉委員長代行）

「苦節二十二年の闘争から教訓を引き出し、働く者・貧しい者・弱い者・地域住民のための医療をもう一度作り上げよう」。医療法人南労会・松浦診療所（弁天）を舞台に、経営側による組合差別組合つぶしを巡って二十二年間争われてきた争議が「和解」という形で終結したのを記念して、労働側である全国金属機械労働組合・港合同・南労会支部による「勝利報告集会」が七月十三日、港区民センターで開かれました。関係者約三百五十人が出席し、闘争を振り返り教訓を確認すると共に、「労働者医療の再建」という新たな闘いへの決意を固めました。

◆争議の発端は労働者医療の 劣質

争議の舞台となった松浦診療所は一九七六年、南大阪を中心とした多くの労働組合や労災被災者がお金を出し合い、「労働者・住民のための医療機関」としてオープン。働く者や庶民の目線で診療に当たる姿勢が多くの患者の信頼を集め、待合室は常に患者で溢れました。また病室だけでなく、その原因である過酷な労働条件や労働環境、公害や社会的差別にまで目を向け、職場改善や予防活動、補償のための行政交渉なども

手掛け、「労働者・住民の命と健康の拠り所」としての役割を果たしてきました。

しかし、経営責任を担った幹部らはやがて“儲け主義”に走るようになり、法人を“私物化”した。批判する労働組合を嫌い、攻撃を加え始めました。一九九二年八月、経営陣は夜間診療を切り捨て、勤務時間を一方的に変更。これが争議の発端となり、以来、組合員にだけ賃金を払わない、組合役員を解雇する—などの組合差別・組合つぶしを重ねてきました。

◆労働者は職場闘争を軸に反撃

これに対して労働組合は「労働者医療を守れ」「解雇を撤回しろ」「賃金を当たり前前に払え」と主張し、上部団体「港合同」の指導による職場闘争を軸に、ビラまきや集会・デモを重ね、地域や全国の労働者の支援を受け、労働委員会や裁判所にも訴え、二〇〇一年末からは解雇された者が生活できるように拠点の確保（二〇〇五年にはデイサービス開設）もしながら、二十二年間闘い続けてきました。

港区の日常的な光景となっていた同診療所前での朝の就労要求や毎日の抗議集会是、地域労

←松浦診療所に対し「働く者の医療を守れ」「組合つぶしをやめろ」と2年間闘い続けてきた労働者 3月11日、井太の同診療所前で



働者の支援を得て一九九一年八月から続けられてきたもの。また地域平和団体である「南大阪平和人権連帯会議」はこの闘争を「自分たちの闘い」と見なし、支援を続けてきました。

◆勝利的な和解協定が成立

←1992年6月から松浦診療所前で続けられた毎意休みの抗議行動中、朝の就労要求



こうした中で、昨年十月から大阪地裁での和解交渉が重なり、並行して直接交渉も続けられてきた結果、今年三月十一日、同裁判所での和解協定が成立しました。

この協定は経営側に対して「未払い賃金に対して解決金を支払いなさい」「長年の労働争議について遺憾の意を表明しなさい」「労働法や労働関係法規を守りなさい」「労働条件などについて労働組合と対等な立場で話し合いなさい」「松浦診療所設立の趣旨を踏まえ、組合員の雇用を保障する形で診療所の存続と再建のために努力しなさい」「組合員の基本給差別を是正しなさい」などと求め、その一方で労働側に対しては「解

雇撤回を求めないよう」、労使双方に対しては「中労委命令の取り消しを求める全ての行政訴訟を取り下げるように」などと求めています。

今回の集会は、この協定成立を「勝利的な節目」と捉えた労働側が、その勝利をもたらした労働運動の教訓を整理・確認し、「労働者医療の再建」という新たな闘いへの決意を固める場として開催したものです。

◆教訓を確認し、新たな闘争へ

集会では港合同・中村吉政副委員長（中村吉政）の司会・進行で関係者が次々と挨拶に立ちました。

このうち港合同田中機械支部委員長の玉置雅彦（たけし）さんは、①闘争途上で亡くなった大和田幸治・港合同田中機械支部委員長（昨年三月没）ら三人の故人による指導・支援を抜きに勝利は語れない②この闘争は「失われた二十年」という全国的な労働運動の逆境に抗して続けられ勝利したという点でも価値がある③その教訓を確認すると共に労働者医療の再建という新たな闘いへの決意を固める場としてこの集会は開かれた」とこの集会開催の意義を強調しました。

また当該組合である港合同南労会支部委員長

代行の小松千尋^{ちひろ}さんは、「勝利を確信できる」として、①経営側に労働者医療という原点を確認させ、その再建への協力を約束させたこと②経営側に労働者の団結権を認めさせたこと」を強調しました。

同執行委員の大野ひろ子さんは、「勝利の要因」として、①職場労働者・組合員の当事者性を尊重した中道弁護士^{なまぢう}的確かつ誠実な法的サポート②組合員の過半を占める女性のパワーを引き出した故和田委員長^{なまぢう}の温かみで蓄える指導③地域や全国からの連帯を引き出した「港合同」の地域合同労組としての強大な運動力」を挙げました。

また担当弁護士として二十一年間活動を共にしてきた中道武美^{たけみ}弁護士は、①この闘争は労働者の団結権破壊攻撃のオンパレードであった②その一つ一つに労働者は丁寧^{ていねい}に反撃し、「ミミ」も後退しなかった③闘争の主体はあくまで職場労働者・組合員であり、私は法的にサポートしただけ④毎回の裁判での支援労働者による満席の傍聴は裁判官の心を動かした⑤そうした闘いが結実したのが「経営側の違法性」と「賠償義

← 地域や官民の連帯を感じさせた懇親会風景



務」を明らかにした二〇〇七年九月の大阪高裁判決であった⑥これが今回の「組合弾圧はしない」「労使が対等の立場で交渉する」「労働者診療所再建へ力を合わせる」という和解につながった⑦これで裁判は終わるが現場に問題は残り闘いはなお続く」と闘争を総括しました。

◆ 受けた支援は運動で返す

このあとの「第二部」では、乾杯の後、友好労組の和太鼓演奏や連帯挨拶、DVD「南労会闘争十二年の軌跡」上映などを挟みながら、食事^{えんじ}を囲んでの和やかな宴^{えん}が張られました。

この中で当該労組員の一人は「振り返れば一九九一年八月五日、経営陣が夜間診療を切り捨て、人員削減を狙った合理化を強行しようとした

ことが争議の発端でした。松浦診療所は南大阪の労働運動が生み出した『労働者の共有財産』でしたから、地域の仲間は『この財産を守るため』文字通り『当事者』として二十一年間、争議を支えてくれました。今、国内外の情勢を見る時、貧困と格差、戦争と基地、原発と核、大増税と社会保障切り捨て、憲法改悪と労働者弾圧など課題は山積みです。私たちは『受けた支援を運動で返す』姿勢を忘れず、人間らしく生きられる社会を求めて、これからも共に闘争を続けていきたいと思っています」と話していました。



「働く者の医療」という崇高な目的掲げて発足した診療所が、事業発展の中で経営陣の变质を生み、かつての仲間とつしが決定的な対立を長期に亘^{わた}って続けた「南労会闘争」。「労働者の勝利」を寿^{むか}ぐ賑^{にぎ}わいのの中で、私的な利得や厳しい現実を前に仲間を裏切ってしまう人間の弱さ・愚かさを痛感させられる一方、苦しくて仲間と助け合い、弱者への愛と社会正義を貫くこととする人間の強さ・気高さ^{けだかさ}・温かさ^{ぬかさ}に心洗われ、励まされる思いでした。

「このち」

池島・勝部泰臣80歳
かっへすおみ

玄関におしゃれした幼い女児が座っている。
「お出かけ？」に「うん」となす。母親に
「時間取材した後の玄関でも幼児は座ったまま。
」土曜はいつもおしゃれして、自分が可愛くて
良い子していると父親が迎えに来て、お出かけに
連れて行っていると思っているのだと母。
眠っているのか、小さな背中が揺れている。「せ
めて夢の中にお父さんが出なければいいなで
すが…」。

一月に百二十時間超の残業を一年近く続け、
三十四歳で突然死した人の家庭取材したM新
聞記者の主張(七月二十五日)の中のエッセー
だ。記者は言葉ではなく体で父を恋慕つ
この幼女に「涙が止まらなかった」と記す。「い
のち」よ「経済」優先の現代社会。「一緒に遊
びたい」「休みの日はおしゃれして欲しい」
と幼い心が訴えるこのエッセーは、どんな能
書きの説得力がある。

今、思い出の数々がよみがえる。物はたしか

に不足していたあの頃。でもあたたかさがあつ
た。人と人は心が通じ合っていた。きいてます
ます涙腺がゆるむ私は、涙のうちにあの幼な児
の姿を浮かべ、「いのちとは」「幸せとは」
とたどるんだ頭で考えつづける。

.....

幼稚園は市立と私立が併存で良い

(磯路・40代会社員)

いつもネットで読んでいます。上の子が来春
幼稚園へ行くので、「市立幼稚園の民営化は良い
ことか」「前号」頁に読み入りました。記事
は関係者の話し合いが中心でしたが、その中で
分かったのは、民営化に賛成の人は一人もいな
かったということ。私立の関係者までが「手間
のかかる部分を民間に任せよう」という議論の
ものに問題がある」と疑問を感じておられるこ
とは驚きました。私は一概に民営化が悪いと
は思っていませんが、「この問題に関しては、こ
の会でも誰かが言わねばならぬ」とは市立と私
立が併存してうまくやっているのだから、全部
を民営化する必要はない」という意見に賛成で
す。それでも民営化するのなら、それと逆に逆

に選択の自由を奪うことになると思います。話
し合いが持たれたのは良いことだと思いますが
大阪市は「民営化ありき」を押し切るのでな
く、落ち着いて関係者の声を聴き、親や子の立
場に立つて考え直してほしいと願っています。

.....

関係者の声聴へ区長の姿勢に共感

(井天・60代女性)

「市立幼稚園の民営化は良いことか」(前号
1頁)を読んだ。民営化の是非はよく分かります
せんが、市長の言うまに「民営化ありき」で
進めるのではなく、まず関係者の声をよく聴い
うということ田端区長の姿勢に共感を覚えました。
何か大事な問題を決める時には、こつこつやり
方が大切だと思います。港区の窓口業務が二十
四区で最高の「二つ星」評価をもちつて海外か
らも注目されていること(前号)2頁と合わせ
て、一区民として嬉しく感じました。

.....

嬉しかったアナタビからの視察

(磯路・40代マニション住人女性)

友だちに「港区のいいが分かるの？」と勧めの

れて五月からネットで読んでいます。去年九月に引越してきて、港区のことはほとんど知らなかったのを助かっています。十日前までは「海外も注目！窓〇業務」(1-2頁)が目玉を引きました。引越しの際の手続きで港区役所の対応には好感を持っていましたが、そのことがいつの形で裏付けられ「やっぱ」だと思うやうに良い所に越してきて良かった」と嬉しくなるやうに。詳しく記事を読むと、やはり区長さんたちがそれなりの努力をされていることも分かり、納得できました。大阪市内で唯一の「三つ星」の評価を受けたというのですが、ぜひ「三つ星」めざって頑張つてほしいと思います。

怖いけど有意義だった防災体験

(市岡元町・辻悦子64歳)

七月十五日に大阪市中央体育館(田中)で開催された「さわやかサマー」コンサートを鑑賞に行きましたが、それが済んでからホール玄関で防災の体験がありました。「発煙「コーナー」ではテントの中に白い煙が充満していて、ハンカチで鼻を覆いながら通り抜けました。一だけ

でも煙の恐ろしさを充分に感じることができましたが、その上に異臭などが加わればどうなるかと想像する、さうに身が引き締まり、怖いけど有意義な体験ができたと思いました。

「防災訓練」の詳しい記事について

(南市岡・30代女性)

南市岡の「キングスクエアランドレックス」での防災訓練(前号の頁)でインタビューを受けた者です。名刺を頂いていたのでネットで探して記事を読んだり、訓練の様子がとても詳しく紹介されているのにびっくりしました。私の



↑読者の作品から尾崎キヌ子氏

(池田3)の絵手紙

声もきつちり載せて下さって嬉しかったです。高層マンションはこれからまだまだ増えていくので、このような地域で結びついた防災訓練は本当に大切だと思います。実際、私自身、この訓練の後、何となく近所の方々との距離が近くなったように感じています。記事にはいろいろ「地域の絆」の大切さも書かれているので、他のマンションの方の参考にもなると思います。

「トーストおさが」の良き再生願

(西区・s・k 40代)

トーストおさが(大阪国際平和センター)がリニューアルされようとしていること(前号17頁)を貴紙のホームページで知りました。トーストおさがは息子が学校から見学に行つて爆弾や防空壕の模型を見たことを話していたのを覚えていますが、記事を読んだ限りでは、その内容が「残虐」「偏回」「自虐的」などの理由で、そつでないものへ変えられようとしているように受け取れました。私には難しいこととは分かりますが、このシンポジウムに集まった人たちが危惧されているような「イデオロギーに

「善い改悪」はいけないと思います。せっかくお金をかけて「ユニークするなら、子供たちが戦争の悲惨さと平和の尊さを感じられる、良い再生となるもの願っています。」

女性の悲劇に涙出た「戦争体験」

（元・60年代団体会員女性）

猪伏昌三さんの「戦争体験」(前巻32頁)。

克明な記憶に感心しながら読ませて頂きました。連載が始まってから欠かさず読んでいますが、

今月は特に連兵による女性たちへの凌辱（いんじやう）が、同じ女性として許せないと思うと同時に、

やはり戦争がこういう悲劇をもたらすのだと改めて戦争のむごさを感じさせられました。凌辱された女性たちがポプラ並木で集団首切り自殺を図った話には涙が出ました。戦争体験は語

る側も読む側も辛いものですが、こうしてきち

ちの文字にして伝え残していることは、必ず次の世代の平和につながると思います。語り部を

探すだけでも大変だと思いますが、ぜひこの「

ナーは続けて下さるようお願いしています。」

『私の大阪港』温かく懐かしく

（区内・60代女性）

冊子購読を引き続き一年間お願いしています。七

月号までは短編小説『私の大阪港』(前巻24頁)

が良かったです。私自身も覚えていた昭和二十年代の港区の風景や人々の様子が懐かしく、読んだ後、ほっとして温かな気持ちになりました。

世話焼きの夫婦と青年の交流が面白く綴られてありましたが、こんな人付き合いは、人を信用

できなくなった今の世の中では難しいでしょう。主人も読んで、「こんな時代もあったなあ」「こ

んな港区にまたなったらええなあ」と二人で語り合いました。小さな宝石のようなお話。これ

からも楽しみにしています。

高田さん 山口さんの活躍について

（八幡屋・70代男性）

いつも地域に密着した記事を楽ししく読ませて

もらっています。高田雄平さんと山口ももさん

の活躍(前巻28、29頁)が紹介され、同じ八幡屋住民としてうれしく思いました。世界

的デザイナーの高田さんは随分前から知ってい

ましたが、山口さんのような若い女性が「不思議ミュージシャン」として頑張っておられることを初めて知り、近くで「コンサートでもされる時にはぜひ聴きに行きたいものだと思います。港区在住者や出身者の記事は地域新聞なればこそ。これからも折りに触れて紹介して下さい。」



↑読者の作品から拝借された

（市国分町3）の絵手紙

あれこれガイド

市岡下水処理場「一般公開」

汚れた水がよみがえる仕組みを学べる「施設見学」Ⅱ写真は昨年の様子Ⅱをメインに、①監視室の見学②微生物の顕微鏡観察③下水道の歴史を学べるDVD上映④下水道資源の有効利用⑤抽水所⑥ゲーム⑦へじ引きー等の各コーナー。地球環境に優しい肥料や透水性レンガなどのプレゼントあ



り。家族で楽しめる工夫がされている。九月七日(土)十時十八時(小雨決行)。「施設見学」の最終回は十五時半から。市岡下水処理場は市岡二・一五・一五。 ☎八五七一・三三六三。

ワークみなと「東北食品市」

東日本大震災で被災した福島県いわき市の精神障害者作業所が震災前の地元産材料、宮城県産材料、昔ながらの製法で作った体と心にやさしい豆腐・豆乳・青豆腐・ドーナツなどを販売し、復興努力を物心両面で支援。毎月第一・第四火曜十五時半から(売り切れ次第終了)▽ワークみなとは主に精神障害者を対象とした就労継続支援B型の指定障害福祉サービス事業所(夕田二・六・三、 ☎八五七一・七五一)。

「海の日」記念・中学生海の作文コンクール

海への関心を高めるため毎年実施。テーマは「海」だが海運・造船・港湾といった範囲にとどまらず、広く海に関わるもの(題名は各自で付ける)。応募資格は今年四月一日現在、大阪・京都・奈良・滋賀・和歌山の各府県に所在する中学校の生徒。原稿の長さは四百字詰め原稿用紙五枚以内(原稿には題名・学校名・学年・ふり

りがな付き氏名を明記)。締切日は九月三十日(必着)。入選発表は十一月下旬。応募・問い合わせは主催の公益社団法人近畿海事広報協会(〒552-0021 大阪市港区築港三・七・一五 港振興ビル二〇四、 ☎八五七三・六三八七)へ。

写真左上はイメージポスター



緑の地球ネットワーク(GEN) 中国山西省

大同市の黄土高原で一九九一年から緑化協力を続ける認定特定非営利活動法人。地球環境のため国境を越えて力を合わせているⅡ写真右下はイメージ。次のような協力方法がある。①会員になるⅡ年会費一万二千円②会報を購読するⅡ年間 千円③カンパするⅡ金額自由(税制上の優遇措置あり)④絵はがき『黄土高原の花』

を購入する「八枚組三百円」の「テオ」「よみがえ
る森」を購入する「三十分五十円」の「切手・書き
損じはがき・外国「コイン・商品券等を送る」の「ボラ
ンティアになる」の「会報発送など」の「黄十高原スタ
ディツアーに参加する」の「黄十高原を訪問し、緑
化協力の成果を観察し、村人と交流し、失われ
た緑を取り戻す試みを体験（そのつど案内）」の「
いずれも詳細・申込等はGENの事務所（市岡一
・四・一四・五階、☎八五七六・六一八一、F
AX六五七六・六一八一、Eメールgentr
ee@s4.dion.ne.jp、http://
homepage3.nifty.com
/gentree/）へ」。

■障害年金もれの心当たりある人は相談を 障

害者手帳を持つ二十歳以上の人のうち、障害年
金を受けられるのに請求手続きをしていない人
が相当数（身体障害者では〇・四割）二万人程
度。このばらつきが厚生労働省の調査で判った
（七月十八日）。原因の大半は、「障害者手帳に
記載されている等級」と「障害年金の受給要件
となる等級」にずれがあるといふ。このため、例
えば、実際には二級の障害者厚生年金を受けられ

る程度の身体障害があるにもかかわらず、身体
障害者手帳の等級が「四級」であるため「自分
は受けられない」と思い込んでいた場合などは、
申請しなければ、いつまでたっても支給されな
いことになる。心当たりのある人は港区役所保
険業務担当（☎八五七六・九九五〇）又は市岡
年金事務所（☎八五七一・五〇三二）まで。

■石綿（アスベスト）パンフ 肺がん、中皮腫な

どの病気や、息切れ、胸の苦しさなどの症状や、
それらによる死に「アスベスト（石綿）によ
るものだ」と認められたら、色々な給付を受け
ることが出来る。このパンフレット「**宣貫**」は、
そんな人たちが家族のために、①石綿による病
気にはどんなものがあるか②石綿による病気と

その病気、その症状は
アスベスト
石綿が原因
かもしれません

ご家族に、**肺がん**や**中皮腫**などで
亡くなられた方はいませんか？

息切れ、胸が苦しいなどの
症状が出ていませんか？

石綿による疾病と認定された場合、各種給付を
受けることができます。

◆お心当たりのある方は、以下の機関にご相談ください。

- お近くの労働基準監督署または都道府県労働局
- 独立行政法人 環境再生保全機構（ERCA）

厚生労働省 環境省 独立行政法人 環境再生保全機構

分かった場合の補償や救済の制度にはどんなも
のがあるか③その場合にどこへ問い合わせたら
よいかなどを厚生労働省と環境省と独立行政
法人環境再生保全機構（ERCA）がまとめた
もの。タイトルは『その病気、その症状は石綿
（アスベスト）が原因かもしれません』。「コン
パクトで分かりやすい」（区四六十代男性）と好
評。港区で暮らすか働いている人なら港区役所
合同庁舎（市岡一・一五・一五）三階の港区保
健福祉センターのチフシスタンドに設置してあ
るものを無料でもらう。

■ムチ打ち（首・腰）無料相談会 交通事故で

ムチ打ちになった被害者を対象とした無料相談
会。八月二十五日（日）十時十八時に行政書士
のむら事務所（築港二・七・一・六〇〇）で。
一人約一時間。事前予約制電話がEメールで。
「どついたら正当な補償が得られるかをアドバ
イスします」「事故後、早めの相談が良い結果に
つながります」（同事務所・野村光恵さん）。E
メール：info@jikkoo110-nomura.com、TEL：六五七六・六〇七八、F
AX：六五七六・六〇七九。

夏の夜空に歓声

三先小で「星を見る会」賑わっ



→地域一体で30年を超えて続く「星を見る会」。
次々と天体望遠鏡をのぞく子供たちから歓声
が上がった。7月27日夜、三先小学校校庭

三先小学校と同校PTAと地域の人々による夏の恒例行事「星を見る会」が今年も七月十七日夜、同校校庭で催され、賑わいました。三十一回目。同校児童（四百三十三人）の大半と地域の人々から合わせて数百人が天体観測や夜店で夏の盛りの夜を楽しみました。

★地域一体の取り組みを強調

開会式では山本満男・同校PTA会長が「地域一体で三十年を超えて続いています」とこの行事の伝統を強調。吉田敬校長は「宇宙人に出会うなどの夢を持つ」と呼びかけ、田端尚伸・港区長は「地域とPTAが連携した取り組みは安全・安心のまちづくりに貢献しています」と地域一体の取り組みに敬意を表しました。

また第一回から天体観測の指導をしてきた高橋正幸さん（七二）に代わって世話役を引き継いだ塚田晃広さん（三九）（港南中学校PTA会長）は「今夜は十星の輪が見えるかもしれないので、一度は天体望遠鏡をのぞきましょう。また八月十三日の朝三時から約一時間、北東の空にヘルセウス座流星群が現われます。肉眼でも五十〜六十個が次々と観えるので、できる

←校庭でゲームを楽しむ子供たち（上はストライクパーフェクト、下はシュートゲーム）



人は挑戦してみましよう」と呼びかけました。このあと町会長や民生委員、子ども会役員、青少年指導委員など地域関係者が「采實」として紹介されましたが、その顔触れの多彩さにも地域一体の取り組みが見て取れました。

★夜店で食べたり遊んだり

子供たちは注意事項の説明を受けた後、校庭に設けられた夜店に散らばり、たこせん、フランクフルト、冷やしパインなどをふるまってもらい、スーパーボールすくい、ストライクパーフェクト、シュートゲームなどの遊びを楽しみました。PTAのお母さんたちが汗だくで世話していました。

★曇り空でも「見えた」

メインの天体観測は空が暗くなった七時過ぎから本格化。子供たちは天文学習DVDを親と一緒に鑑賞するなどしたあと、三台の天体望遠鏡に列を成し、青少年指導員の世話で次々とできました。「この夜はあいにくの曇り空で、期待された十星の輪はあるか、月も他の星々も厚い雲の向こう側。レンズが捉えるのは近くのピルムくらいでしたが、「触つたら（望遠鏡が動いて）見えへんよつになるで」などと注意されながら、びっくりするほど大きく見えるネオンサインの文字などに「見えた」「すごい」「緑色やー」などと歓声を上げていました。



「汗だくで飲食の世話をするPTAのお母さんたち（上はフランクフルト、下はだんご）」

★「いい催し」と保護者

三先小四年生の長女・悠愛さんと二年生の長男・翔大くんを連れて会場を回っていた山本康人さん（四四）は「四回目の参加です。妻（恵さん）が冷やしパインの店の世話をしています。この催しは、夏休みでバラバラになった子供たちが一カ所に集まり、一緒に天体観測をしたり、ただで健康的な遊びを楽しんだりできるとも素晴らしい催しです。今日は曇り空で星は見えませんが、天体望遠鏡をのぞくだけでも子供たちの思い出になるでしょう」。悠愛さんは「食べ物はどうもおいしかったです。特に冷やしパインがおいしかったです。ゲームはどれも面白かったです。特にスパーボールすくいが面白かったです」とにっこり。

また四歳の長女・向日葵ちゃんと二歳の長男・蒼田多くんを連れて会場を回っていた母親の宮地さんは「友だちに勧められ、池島から初めて参加しました。長女が保育園で科学館へ行くと星に興味を持つようになったところだったので、天体望遠鏡をのぞけてとても喜んでいました。これだけのイベントを準備する地域の方

←青少年指導員の世話で次々と天体望遠鏡を覗く子供たち。星は見えなくても笑顔が弾けた



の協力はすごいと思います」。向日葵ちゃんは「冷やしパインもたこせんもフランクフルトも全部食べました」と遊びコーナーへ一目散。また三先小二年生の長男と二歳の長女を連れて会場を回っていた服部由妃さんは「四回目の参加です。去年はPTAで世話をしました。この催しは、子供たちがただで色々な遊びを体験できる、とても素敵な催し。地域の方が力を合わせて三十年以上続いていることにも頭が下がります」。長男は「スパーボールがたぐすくえて面白かった。食べ物では冷やしパインが一番おいしかったです」と満足そうでした。

波除小が貴録の4連覇

区Pバレー 16チーム熱戦

第四十五回港区PTA親善女子バレーボール大会が七月二十八日、港スポーツセンター（田中三丁目）で開かれました。港区PTA協議会が主催、港区教育親和会が後援。十八チームが熱戦を繰り広げ、波除小が優勝、三先小が準優勝を飾りました。

◆自主運営の取り組みを報告

開会式では緊急の所用で欠席した港区PTA協議会・大川裕之会長（波除小学校PTA副会長）に代わって宮本隆司副会長（池島小学校PTA会長）が主催者あいさつに立ちました。この中で同副会長は「昨年十月から事務局業務が自主運営となり、バドミントン、卓球などの各大会を試行錯誤しながら開催し、その中で課題も見えてきました。今年三月下旬に各チームの運営委員会を中心に議論し、選手自身が運営を担う方向へいれから継続しようとして確認しました。」

↑明るく爽やかに選手宣誓する井太小学校PTAチームの伊井麻里子主将（7月28日）



今回もそうして何とか開催に辿り着けましたが、港区バレーボール連盟の萩野会長らから強力なサポートを頂き、心から感謝しています」と昨秋来の自主運営の取り組みを報告。その上で、「今日は親睦と楽しさを第一にしながらも、結果が市P大会につながるのので、それに向けての熱のこもった迫力プレーも期待しています」と選手たちを激励しました。

◆「女性パワーに期待」と区長

来賓として出席した田端尚伸・港区長は「昨年、色々な見直しの中で、各団体の運営に区役所は直接関わらず、自主運営をお願いするとい

うことになり、」苦勞をおかけしてきました。

その中で『解散』などの声も聞きましたが、結果的には運営の在り方をゼロベースから検討され、活動を継続しようという方向をとられたことに心からの敬意を表します。とはいえ区役所としては、内容的にはこれまで以上にサポートしていきたいと考えています」とPTA活動などへの港区役所の変わらぬスタンスをアピール。その上で「このほど港区役所の課長代理以上の女性比率三七・五割が、二十四区を含めた大阪市全五十局中で断トツの一位だったことが判りました。（だから）このわけではありませんが自主運営が二年目に入るけれども、女性パワーを生かした区政運営を心がけたいと考えています。今日は親善が第一ですが、日頃の練習の成果を発揮した熱戦も期待しています」と女性パワーへの期待の大きさを語りました。

◆「二工夫な宣誓」沸く

また港区教育親和会・名古屋秀副会長は「親睦を図りながら、安全に、しっかりとプレーを」、審判などで協力する港区バレーボール連盟・萩野久美子会長は「怪我のないよう注意しながら

楽しくプレーを」とそれぞれ選手たちを激励。
選手宣誓では弁天小の伊井麻里子主将が「私たちはスポーツマンシップにのっとり、日頃の練習の成果を発揮し、正々堂々と戦つてを誓います」と元気一杯に宣言。その途中、やわら背後の選手たちを振り向き、「バレーボールをいじやるんですから」今でしょよ」と流行語でエール交換するという、ユーモア溢れるパフォーマンスも組み入れ、会場を沸かせました。

◆懸命の攻防、白熱の決勝戦

大会は完全トーナメント形式で進行。港南中、八幡屋小、築港小をいずれもストレート（対〇）で降した波除小と、市岡小を「対一」、弁天小と磯路小をストレートで降した三先小が決勝に進出しました。

午後三時半すぎに始まった決勝戦では、両チームとも四試合目であつて疲れがピークに達する中、ミスにも声をかけて励まし合いながら白熱のプレーを繰り広げましたが、伊原和美主将を中心に、サブカットからトス、アタックへと流れるような連係が最後まで崩れず、五枚アタッカー（エース北川選手を軸とする入保田・

←4連覇を果たして笑顔が弾ける波除小学校PTAチーム（後列左端は宇都宮幹人・波除小会長、同右端は宮本隆司・区PTA協副会長）



船蔵・広瀬・蔵田の各選手）にボールを集めて効果的に得点を重ねた波除小が、二十一対十二、二十一対九と連取して危なげなく勝利を収めました。どこまでもボールを追つ、厳しいスパイクにもひるまない、ミスしても引きずらない、

冷静に相手の隙を突く、無駄な動きをしないなど、全体として精神力の強さが光りました。

一方の三先小は長谷川由美子主将を中心に、エースアタッカーの切れのあるスパイクや、持ち味の強力サーブなどで懸命に追撃を図りましたが、疲れもあつてレシーブなどでイージーミスが連続するなど、好守でリズムに乗れないままゲームセット。層の厚い攻撃力（鐘搗・長谷川・井上・高宮城・赤木の各選手から成る五枚アタッカー）を生かすことができませんでした。

◆築港小と磯路小が3位

波除小は四連覇。平成元々八年度に未到の八連覇を達成して黄金時代を築いたOBらのねぎらいを受けていました。優勝二十一回は大会史上断トツの一位。OBの娘さんも活躍するなど、世代を継いでバレーボールを愛する地域の伝統の力が生きた、貫禄の優勝でした。

一方の三先小は四度目の準優勝。勝てば十二年ぶり一回目の優勝ということで、決勝ではOBや学校関係者が声を張り上げて応援しましたが、一歩届きませんでした。

三位は築港小と磯路小。他チーム（築港中、

池島小、港中、港南中、市岡中、市岡東中、港晴小、南市岡小、弁天小、田中小、市岡小、八幡屋小）も練習の成果を発揮して健闘。敗れたあとも最後まで、様々な役割を担って運営に協力しました。

◆優勝チームは西ブロック大会へ

閉会式では宮本副会長が二位までのチームに賞状やトロフィーや賞品（バレーボール）を授与。武内律子副会長（市岡中学校PTA副会長）は講評で「家事や仕事で忙しい中での主力プレー、お疲れ様でした」と選手の労をねぎらいました。

なお、この大会は大阪市PTA協議会主催の市大会（来年1月）予選を兼ね、優勝チームはまず西ブロック大会（11月）突破を目指すとになります。

◆5連覇へ全選手のリベルアップを

優勝した波除小学校PTAチームは神原正枝監督のもと、同校で毎土曜、各三時間の練習を重ねてきました。選手の年齢幅は二十八歳〜四十歳代前半。伊原主将は「気持ちを一つに四連覇しよう」とを合言葉に出場し、その通りになって、とても嬉しいです。サブカットから

トス、スパイクへの流れを作ることをポイントに練習を重ねてきましたが、それがどの試合でも生きました。5連覇に向けては、全選手がどのポジションでもこなせるようになることをめざしながら全体的なリベルアップを図っていき



→準優勝に爽やかな笑顔の三先小学校PTAチーム

（後列左端は小松茂・三先小PTA副会長、同右端は武内律子・区PTA協副会長）

たい」と早くも次大会を見据えていました。

◆優勝へプレーの精度上げたい

一方、準優勝だった三先小学校PTAチームは同校で週三回、各二時間の練習を重ねてきました。選手たちの年齢幅は二十八〜四十四歳。

清水聖昭監督は「決勝戦では実力の差が出てしまい、残念な気持ちもありますが、結果には納得しています。最後まで残れたのは、やはり基本を中心にした練習の成果。特に今日は、よく練習してきた持ち味のサーブが冴え、サーブカットも良かった。基本はほぼ出来上がったチームなので、今後は一つ一つのプレーの精度を上げていくことが優勝への課題。まだまだ伸びしろのあるチームです」と話していました。

なお、この大会には港区バレーボール連盟が審判団として全面的に協力。また大阪府柔道整復師会港支部から八木接骨院（港晴）の八木院長、いづつ整骨院（市岡）の桂院長が常駐し、捻挫、肉離れ、古傷の痛みなどを訴える十数人にテーピングなどの応急処置を施し、選手たちの安全を支えました。

中学バド 今年も活況

160数選手が爽やかなプレー



→港南中学校など10校の選手が元気で爽やかなプレーを繰り広げた「中学生バドミントン大会」7月21日、港スポーツセンターで

「バドミントンを通して中学生の交流を」と

今年も「中学生バドミントン大会」が七月一日、港スポーツセンターで開催され、地元の港南中など市内十校から参加した二十五チーム・百六十数選手が爽やかなプレーを繰り広げました。港スポーツセンター利用団体交流会・バドミントン大会実行委員会（岡野三津茂代表が主催。シンコースポーツ㈱・㈱レケンテクノ共同体、大阪市港区バドミントン連盟、BWAY井天町店が後援。五回目。

●3年は宮原中が優勝

大会は団体戦で、三年生の部と一・二年生の部に分かれ、各試合はダブルス→シングルス→ダブルスの順に進行、各ゲームはフリーポイント方式で、二十九点ゲームマッチ（延長は三十五点まで）で行なわれました。

このうち三年生の部には城東、大正西、宮原、東住吉、長吉、墨江丘の六校から十チーム・六十一選手が出場。一ゾーンに分かれての各総当たり予選リーグ戦→各ゾーン一位ずつしの決勝トーナメント戦の結果、宮原中学校Aチームが長吉中学校Aチームとの決勝戦を制して優勝を

飾りました。

●1・2年は宮中が優勝

一方、一・二年生の部には城東、墨江丘、大桐、東住吉、大正西、港南、長吉、歌島、東三国の九校から十五チーム・百三選手が出場。三ゾーンに分かれての各総当たり戦→各ゾーン一位ずつしの決勝トーナメント戦の結果、今宮中学校チームが墨江丘中学校Aチームとの決勝戦を制して優勝を飾りました。三位は城東中学校チーム。

●港南中2チームも健闘

一・二年生の部に出場した地元の港南中学校はAチーム（寺井雪乃・長澤美桜・福田七海・田中寧葵・平菜摘・稲川なのは・綾部奈津子の七選手）とBチーム（梅木優・数井鈴・三上葉奈・山本莉静・土佐優果・木島亜子の八選手）に分かれて健闘しましたが、両チームとも決勝トーナメントには進めませんでした。

交流を第一とした健康的な熱戦と共に、大会終了後には参加者全員で会場を清掃するなど、教育の視点を欠かさない主催者の運営ぶりも印象的でした。

スポーツ短信

大阪港カッターレースで港区チーム健闘

大阪の夏の風物詩^{ふうぶつし}となった「大阪港カッターレース」が七月十四日に天保山岸壁前面海域で開催された（大阪港みなとまつり）の一環。実行委主催。二十四回目。五十四チーム（男子三十九、女子十五）が参加、うち港区からは十七チーム（男子十四、女子三）が出場。梅雨明けの強烈な日差しの下、波しぶきをあげながら力一杯オールを漕いだ。港区チーム（男子ではドラゴンスピリッツ（株辰巳商会）が三位、轟天丸（市民団体）が五位、ドラゴンスピリッツがベストタイム賞、MAGUCHI CUTTER CLUB（株間口）がタイム賞二十位、ドラゴンフアイターズ（株辰巳商会）が実行委賞長賞、LENE HANDLERS COSMO（有）コスモ商運が事務局特別賞にそれぞれ輝いた。他に、港区男子ではオールウェイズフジワラ（藤原運輸株）、ドラゴンルーキーズ（株辰巳商会）、SKマリンスターズ（財新日本橋定協会、住友アングダーボイズ（株住友倉庫）、滋澤倉庫（滋澤倉庫株）、KINKI RAINBOW（近畿港

運株）、WILD ARMS（大阪市港港局、海事検定ドルフィンズ（財日本海事検定協会、海遊館・サザンクロス（株海遊館、港区女子では



→港区の夏の風物詩となった「大阪港カッターレース」は七月十四日、天保山岸壁から撮影（写真）はスタート直後の女子レース予選。手前からチャレンジ^{かい}ラディーズ、メリケンボーズ、港区の多根^{たね}レディースの各チーム

多根レディース（老健施設てんぼざん）、住友倉庫スパーレディース（株住友倉庫）、クイーンリバー（株辰巳商会）も健闘した。

夏の高校野球大阪大会で市岡がベスト16、通算200勝も

第94回全国高校野球選手権大阪大会で港区2校が健闘した。このうち市岡元町の府立市岡高校硬式野球部（宇賀神充利監督・宮久保亮主将）は七月十五日の二回戦（万博球場）で阿武野に八対二で八回コールド勝ち（投手は正木、中林が本塁打）、夏の地方大会通算二百勝を達成した。続く十八日の三回戦（同）では福井に一〇対〇で五回コールド勝ち（投手は正木・由中）。二十一日の四回戦（舞洲スタジアム）では優勝候補で今春の府大会準優勝校・金光大阪に五対二で勝利（投手は正木、ベスト16入りを決めた。しかし二十四日の五回戦（同）では関西創価に三対八で逆転負けを喫した（投手は正木・由中）。二百勝を達成した十五日の二回戦（阿武野）では八回裏、一死・三塁から正木投手（三年）が適時二塁打を放ってコールド勝ちが決まると、万博球場の三塁側応援スタンドから拍手と大歓声が上がった。熱心に

←夏の地方大会通算200勝を達成した市岡高校。写真上は7月15日の2回戦勝利後。同下は同戦で相手走者を三本間に挟む田頭遊撃手◎と杉村捕手Ⅱいずれも朝日新聞社提供



声援を送っていたOBの六十代男性は「長い年月をかけて多くの先輩が積み上げてきた記録。感無量です」。宇賀神充利監督（四〇）は「ブレイシャーからやつと解き放たれました」と破顔一笑。勝ち越しソロ本塁打を含む二打点と活躍した四番の中林丈左翼手は「直球を狙っていました。前の打席の押し出し死球で力が抜けたのが良かったのかも」と記念すべき試合での活躍に興奮気味だった。同校野球部は一九〇六（明治

三十九年に創設され、前身の全国中等学校優勝野球大会の第一回（一九二五年）から地方大会に参加。第二回大会では全国大会で準優勝。百年近い大会の歴史と共に歩みながら、皆勤を続け、勝利を積み重ねてきた。三本線が入り、独特の形をした伝統の野球帽は全国でも珍しい。

■高校野球大阪大会で港が3回戦進出 第94

回全国高校野球選手権大阪大会で港区2校が健闘した。このうち波除の府立港高校硬式野球部（河合孝監督・力根樹主将）は七月十一日の一回戦（万博球場）で大阪国際大和田に八対〇で七回コールド勝ち（投手は柴田・桑野）。十五日の二回戦（同）では箕面東に八対二で勝利（投手は山本・柴田）。しかし二十日の三回戦（同）では三年ぶり優勝を狙つ優勝候補の履正社に〇対一〇で五回コールド負けを喫した（投手は柴田・山本）。

■市キックベース大会で八幡屋チーム健闘 第

四十回大阪市各区子ども会対抗親善キックベースボール大会が七月七日、大正区千島の千島グラウンドで開催され、各区の予選を勝ち抜いた二十チームが「大阪市ナンバーワン」をめざし

て熱戦を繰り広げた。このうち港区代表の八幡屋子ども会チームはトーナメント一回戦で新東二国連合子ども会（淀川区）と対戦。熱戦の末、六対八で敗れた。

■弁天出身の天ノ若が引退 大相撲名古屋場所

（七月七日）二十一日、愛知県体育館の取組表に名前がなく、夏場所（五月、東京）を以て引退したことが日本相撲協会により明らかにされた。最終番付は序二段・東七枚目。玉ノ井部屋。本名天野清智^{あまのわか}。三十四歳。得意技は突き押し。平成七年夏場所入門。過去最高位は序二段・西二四枚目（平成二年初場所）。



→18年間の十両生活に別れを告げた港区出身の天ノ若。お疲れさまでした！

地域の催し

落語&手品に大爆笑

市岡 西明寺で初の地域寄席



→地域の協力で開かれた「市岡納涼寄席」。桂福

丸さんの落語とKiribitoさんの手品会

に爆笑が絶えなかった7月2日、西明寺で

落語とマジックにお寺の広間は爆笑の渦。

市岡地域で初の地域寄席「市岡納涼寄席」が七月一日夜に開催され、百人を超える来場者でにぎわいました。市岡 丁目の紫雲山 西明寺 浄土真宗本願寺派 西本願寺 が主催し、市岡地域の人たちが協力しました。

寄席は午後七時半に開演。主催者を代表して西明寺住職の熊本宜雄さん(四九)があいさつに立ち、「お寺で落語をやるとというのが全国的なブームになっている中、この市岡でもやってみよう」と、多くの方の協力で実現しました。今晚は大いに楽しんで下さい」と呼びかけました。

◆砕けた喋りで『寿限無』

最初に登場したのは市岡在住の落語家・桂福丸さん。福丸さんは一九七八年四月、神戸市に生まれ、灘中学校、灘高校、京都大学法学部を卒業後、英語落語を学び、アメリカ公演も。二〇〇七年三月、四代目桂福団治さんに入門。名付け親は作家の故藤本義一さん。現在、天満天神繁昌亭をはじめ、「ニユー・スクランブル」「AKB48」などのテレビ番組にも出演中。

「自分の写真が載ったポスターが港区中に貼

られて嬉しかったんですが、この前の雨で顔がごんな崩れてました」「この会場は、広さも人数も男女比率も年齢層も、それに美女の割合もベスト。綺麗な方ばかりやと緊張してやりにくいですから」などと枕で笑わせた後、古典落語からポピュラーな『寿限無』を演じました。

——生まれた子が元気で長生きできるようにと「寿限無」「五劫の擦り切れ」「長久命」と縁起のいい名前をいくつか紹介された親が、どれにするか迷った末に「皆つけろ」。やがて子供は成長して入学するが、寝坊助で晩白。友達が誘いに来た時、母親が超長い名前を呼んでいるうちに友達はおばちゃん、遅刻するから先に行くわ。殴られて瘤を作られた近所の子が言いつけに来た時には、長い名前でもやり取りを繰り返すうちに瘤がへっ込んでしまい、父親が「瘤なんてないやないか。お前、嘘ついたな」。現代風にアレンジした分かなりやすい筋書き、京大卒らしからぬ砕けた喋り口、生き生きした表情が連続爆笑を誘いました。

◆巧みなマジック「目と口黒

続いて登場したのは、七年前から二先に住ん

でいるというマジシャン・Kibittoさん。
USJをはじめ日本全国のテーマパークや商業施設に出演し、数々のショーやイベントを成功させてきた実力派エンターテイナー。FMラジオ番組「キビートのキビキビトーク」(81・4月)にも出演中。

ハンカチやロープを使った手品の巧みさもあるしながら、聴衆に両腕を前に伸ばさせて交差させ、両の手指を組み合わせるなど左右どちらにも回せないはずなのに、Kibittoさん自身は回せるという不思議な会場は目を白黒。再度のつくり手順を辿った時に、種明かしが分かる人には分かるという、会場参加型マジックでの機知と遊び心溢れる話術が秀逸でした。

◆テンポよく語り『道屋』

再び桂福丸さんが新たな着物を羽織って登場。「着物を二持っているんですよ」この前の寄席でおばちゃんに誉められまじった『面白かったわ、プロになったらいい』『わ…』『ピョンポン鳴らすんはたいがいタッキユウ便ですわ…』よつ分くらん人も二割はいたはりますけど「ななひ枕で笑わせた後、やはり古典落語が

←盛況だった市岡初の地域寄席。写真上は感謝を述べる仕職、下は熱気と笑いに溢れた会場



ら『道屋』を演じました。

——道楽者の若者に商売を覚えさせるため、

道屋の叔父さんが、碌な物はないのに狡い手口だけは色々教え、自分の代わりに夜店へ行かせるが…。この鋸は焼きが甘い」と怪しむ大工には「焼きは入ってます。なんせ火事場で拾ってきたもんですさかい。そんなんでも並べといたら、どこのアホが買っていくさあやろ思つて置いてますねえ」と内輪の話をぼろりして怒らせる。「この刀は無銘か?」と問う客には「はい。ムメイさんという方が作りはりました。こんな真鍮で、どいどい『シヨンベン』(買わないで逃げろ)を意味する道屋の落語

葉)されるが、笛の穴に指を入れて抜けなかった最後の客には「困るなあ」と売り付けたのはよいが、「上乗せして売れ」との叔父のアドバイスを思い出して法外な高値をぶっかける。「お前、足元見たな」「いいや、手元見えます」。巧みな箇の取り方、テンポよくメリハリの利いた語り口が再びの大爆笑を呼びました。

◆笑って健康で長生きを

このあと抽選会が行なわれ、最後に再び仕職が登場。寄席成功のためにポスター貼りや自転車整理などで協力してくれた地域の人たちに感謝を述べ、今後とも寄席を続けたいとの抱負を語った後、「皆さん大いに笑って健康で長生きを。そつなるとつちは困ってしまうかも…」と落語家顔負けの『落ち』で締めくくりました。

前列で大笑いしていた井上笑子さん(七五)(港晴)は「落語もマジックも最高でした。特に福丸さんは、面白く中にも灘中・灘高・京大卒らしい知性も感じられ、素敵でした。この寄席は地域を盛り上げようという市岡の人たちの心意気を感じられる素晴らしい催し。また開いてほしいです」と話していました。

船と海をメルヘン風に

築港中の市原さん 海の絵画コンで入賞



↑安治川の河口付近を行き交う船などをメルヘンチックに描いた市原夏実さんの「船と海」

海への関心を高めるため毎年実施されている

「中学生海の絵画コンクール」(近畿海事広報協会主催)で築港中学校三年生の市原夏実さんが入賞し、港区民の喜ひとなっています。

入賞したのは六十校・三〇八名の応募から選ばれた四十人(金賞一人、銀賞二人、銅賞八人、佳作三十人)。このうち市原さんは安治川の河口付近を行き交う船などをメルヘン風に描いた水彩画「船と海」Ⅱ写真Ⅱを出品し、みごと佳作に選ばれました。

◆自慣れた風景に心惹かれ

この作品は、同校の美術部(顧問は安永佳世教諭)に所属する市原さんが一学期の部活動の中で描いたもの。水面や空、対岸の倉庫群などを主体に淡く彩色し、工場地帯のちよつとびり濁った空や潮の匂い、高速道路を走る車の音や船のエンジン音などが微かに伝わってくるような、どこかメルヘンチックな雰囲気の特徴です。

市原さんは、同コンクールに部員全員で出品することになった時、先輩が撮った一枚の写真を偶然見つけて「何か心に惹かれるもの」を感じ、描くようになったそうです。天保山渡船場か

ら安治川の対岸(此花区桜島の工場地帯)を望

む、日ごろ自慣れた風景でしたが、それだけに「きれいに残したい」と気持ちを込めて画布に向かいました。写真を元に、少しデフォルメ(変形)して下描きをし、その上から水彩絵の具を塗り重ねていきました。苦労したのは「波」。単調にならないよう、色に強弱をつけたり形に変化をつけたりしながら「少しずつ丁寧」に描いたので、とても時間がかかったそうです。

◆自表現の手段として

そうして苦労して仕上げただけに、入賞の報には「去年の先輩に続いて佳作に入れた」と皆で大喜び。賞品の図書カードは本好きな市原さんへの思わぬプレゼントとなりました。

「絵画のがき手」について市原さんについて、絵を描くことは「自表現の手段の一つ」とか、「これからも絵を続けていきたい」と意欲を燃やす市原さん。その心の画布には既に「将来はアーティスト」になる夢が描かれてくつろいでいます。なお入賞作品は近畿海事広報協会のホームページ(<http://www.kinkikai.ji.sakura.ne.jp>)で観ることができます。

港区民の手記をもとに、地元在住の作家・青木健一さんがつづいた当地下ノマ。区内の地名や人名が登場しますが、総じてフィクションです。第三作は、昭和五十年代のみなと通と小川病院（市岡）を舞台に、孤独な若者と明るいつ女の出会いを描く温かなラブ・ストーリー。

みなと通の灯（上）

今もみなと通を歩くと、とりわけ市岡の小川病院あたりにさしかかると、六十一歳の熟経営者・四宮裕一の胸は熱くなる。三十数年前のあの日の出来事が昨日のこのように甦るからだ――。

一九七六（昭和五十二）年の正月を二十四歳の裕一は小川病院の外科病棟の大部屋で迎えた。前年の暮れ、近くの路上で下水管理設工事に従事中、左足の親指・人差し指・中指を骨折して緊急入院したからだ。石膏で左足の脹脛から下を覆って固め、歩行には松葉杖を使っていた。

入院生活は数カ月及び見込みだったので、

彼は頭と体が鈍らないよう規則正しい生活を心がけた。回診や検温や点滴の合間に、ベッドの横のサイドテーブルで日本史や英語の勉強をし、ベッドの上で腹筋運動をし、屋上の物干し用パイプにぶら下がって懸垂運動をした。看護婦らが「入院中にこんなことをする患者さんは初めてやわ」と呆れていた。

裕一は一九五二（昭和二十七年）、吹田市に生まれた。三人兄弟の長男だった。勉強熱心な母親の影響もあって、小学校でも中学校でも「学校の秀才」で通っていた。が、進学校として有名な北野高校に入学してから歯車が狂い始めた。中学三年生の時に父親の経営していた小さな建設会社が倒産。経済的な困難を母親のパート労働に支えられて受験勉強に集中し、余裕で



合格を勝ち取ったものの、入学後は「エリートにあらずば人にあらず」「予習・復習をしない者は生徒にあらず」的な校風恐ろしく彼自身が被害妄想的にそう思い込んでいたに過ぎなかった。が、逆に勉強への一途さを失わせ、哲学に被れた級友の影響もあって、なおさら授業への集中を欠き、辛うじて進級できるありさまだった。

卒業後は「予備校へ行ったらどうや。学費は何とがするから」という母親の勧めを振り切って京都の新聞店に住み込み、未練のあった京都大学文学部哲学科への進学を一応は目指したが、ここでも病的な神経質から勉強に集中できず、折日からオルグ（運動の組織）に來た左翼青年に煽られて賃上げ交渉の先頭に立ち、その中でチフシ折り込みを単独でサボったことから店をクビになった。「もはや家に帰ることは許されない」と思い込み、単身上京して新宿の新聞店に住み込んだ。しかし地方出身者の多い植民地のような店の雰囲気馴染めず、大都会での暮らしはいっそう孤独を深めた。

が、そんな中で出合った映画サークルが、当時、高度成長を続けていた日本経済の歪みや口

ッキード事件など日本政界の汚職構造、ベトナム戦争などの国際情勢の理不尽に目を開かせてくれ、一転して集団での社会改革活動を目指すごとなる。しかしここでも病的なまでの完全主義から理想の活動家を目指すあまり、自身の非力と非協調の傾向に嫌気がさして仕事を放棄、逃げるに至った。

そうして、東京、横浜、名古屋などの新聞店やパチンコ店を渡り歩いた後、吸い寄せられるように辿り着いたのが、大阪市西成区の釜ヶ崎いわゆる「あいりん地区」だった。日雇労働者の向けのドヤ（簡易宿舎）が軒を連ね、昼間からアルコールとホルモンと小便の臭いが交錯する吹きだまりのような街だったが、「真つ黒な俺の過去にふさわしい場所や」と自らを納得させた。それでも、こことん落ち切ることへの人間としての本能的な抵抗からか、辛うじてこう考え直した。「エリートにも活動家にもなれないならせめて一般社会で通用する普通の人間になるため、このどん底で己の心身を鍛えよう」。

最初は飯場で、次には日払いアパートから、決して頑強とはいえない体を雑役などの土方仕



事に向けた。その肉体労働にも慣れ、少しは普通人としての自信も生まれつつあった時、僅かな油断から矢板（土木工事で土砂や水の浸入を防ぐために打ち込む板状の鋼製杭）を地下足袋の足に落としてしまったのだ。労災が適用され、現場のボーシン（責任者）がパシヤマなどの生活品を揃えてくれ、入院生活が始まった。そして、それでも社会復帰に向けた裕一の孤独な鍛練は続けられていた。

やがて入院生活にも慣れた三月。一人の若い男性が担ぎ込まれた。背は低いががっちりした体格で、色が黒く、短髪でやんちゃそうな顔付きをしていた。首に白いコルセットを巻かれていた。パチンコ店へ自転車で向かう途中で車に当てられ、鞭打ち症になったと隣のベッドの男

性に話していた。名を竹原哲夫といった。

哲夫は入室するなり誰にも気安く親しげな態度で接した。他人の仕事（しごと）を茶化（ちやか）したり駄洒落（だじゃれ）を飛ばしたりしては周囲を笑わせ、自分も嬉しかった。この天性のものと思える彼の陽気で病室は一気に明るくなった。それまで特に関心を持ち合わなかった同室の十人ほどの患者の間に繋がりと親しみが生まれた。

「こんな壁のない、明るい人間があるんか」。相変わらず勉強やトレーニングを続けながら、裕一は目を見張った。「この人はほんまに人間が好きなんや」。確かに裕一にとって初めて見るタイプの人間だった。

この哲夫と裕一とは同年といつことも手伝ってすべに親しくなった。より正確に言えば、哲夫の分け隔てのない陽気が裕一の心の壁をいとも簡単に崩したのだ。

哲夫は大阪港の港湾労働者の次男として港区の田中で生まれ育ち、中学卒で、まだ定職に就いていなかった。付き合っていた女性が妊娠したため、やむなく籍を入れて一緒にアパートで暮らしており、出産は六月頃の予定だと言った。

そんな、エリートとは無縁な、庶民臭する出しの生い立ちや近況をあつからんといやべる哲夫の開放性もまた、裕一には新鮮に映った。

酒好きな哲夫は夜になると、よく同室の何人かを誘って飲みに出かけた。もちろん病院規則で禁じられた行動だったが、それを破ることを悪いと思わせない彼の明るさに引つ張られ、裕一たちは付いて行ったのだ。その中には、普通ならとても人付き合いができないような、おどおどした感じの三十過ぎの小柄な男性もいた。が、その男性にも哲夫は声を掛け、店に入ってからその男性に冗談を飛ばし、その時の受け答えが面白くと言って、それを真似たりしてはまた笑わせ、その男性を皆の輪の中に引き込んでいた。

哲夫は子供好きでもあった。友達との喧嘩が原因で左腕を吊っていた保田という中学一年生の男の子や、体育の相撲で脚を折ったタツちゃんと呼ばれる小学四年生の男の子の面倒をよく見てやっていた。それで裕一も、一人とよく遊んだり勉強を見てやったりするようになった。

また哲夫を通じた形で、裕一は同室の将棋好き

きの男性一人と親しくなり、彼らと将棋を指すようにもなった。この二人はギャンブルにも目がないようだったが、院内ではそれができない分、裕一には熱心に定石などを教えてくれた。とにかく哲夫と付き合いっていると、裕一にも哲夫の人間好きが移るようになっていった。周囲の誰もが愛すべき好人物に見えた。これは裕一にとって、本当に生まれて初めての経験だった。

哲夫を見舞いに来る何人かの身内の人間は、彼と同じように皆にぎやかで、独特のガサガサした雰囲気を持っていた。その中に、小柄な体にジーンをはき、おかっぱの髪の毛を揺らしてグラグラ笑う姿があった。裕一は初め、その後ろ姿と笑い声から、哲夫の弟か何かにあたる男の子ばかり思っていた。が、それは十二



歳になる哲夫の妹だった。名を悦子といっ

た。彼女は一度目が三度目の訪問時に、自分の手作り絵本を裕一に見せた。彼女は会社勤めの傍ら「銀河の会」という詩と絵のサークルに入っていた。そして、そのメンバーが創作したという童話の挿絵を「描いてみませんか」と裕一に勧めた。裕一はその話の内容を見てから決めることを答えた。その次に来た時、彼女はその童話を見た。「もべらのおとしあな」という単純なストーリーだった。裕一が「これくらいなら描けるかな」と控えめに答えると、彼女は鞆から色鉛筆とスケッチブックを差し出した。裕一の返事を予期し、用意してくれていたのだった。いつして裕一は竹原悦子と出会った。彼女は兄と同じように、とても人間好きの性格だった。裕一ともしゃべったが、同室の他の男性とも楽しそうにしゃべっていた。それで、「あの娘は特に俺とだけ親しくしてくれていいわけではないんや」と裕一は考えていた。が、一方で彼女と特別に親しくなりたいという気持ちも徐々に抑え難くなっていた。

（つづ）

認知症の母囲む一家の絆

寺口昌俊『母ちゃん、飯たくな!』

「認知症の母親を見つめる著者の温かな心に涙が溢れた」(五十代男性)「困難を乗り越える家族の逞しさに励まされた」(四十代女性)。下関市で下務店を営む四十代の男性・寺口昌俊さんによる『母ちゃん、飯たくな!』母の記憶が無くなつてゆく『写真』は、認知症の母を囲む一家の暮らしを温かいまなざしで感謝を込めて日記風に綴ったエッセイ。今年八月に刊行され、港区でも反響を呼んでいます。

著者は現在四十七歳。十八歳の長男、十五歳の長女、それに七十九歳の母親との四人暮らし。長女が小学生になる頃に離婚し、母親に子供たちの面倒を看てもらいながら仕事を続けてきました。しかし八年ほど前からその母親が少しずつおかしい行動をするようになり、家族に戸惑いが起きます。

——湯沸かし器の中に麦茶を入れる。財布が



ない部屋中の筆筒の引き出しを開ける。買い物に出て帰れず、父に保護される。これはおかしいと医者へ行くと「記憶障害」の診断。デイケアに通うようになった。一年以上は機嫌良く通っていたが、突然爺ちゃん婆ちゃんばかりのここへ行けんと退所。実際、「飯を作るなど薬の効きめがあったと思われる恢復ぶりだった。しかし再び、外に出て帰れない、タオル一枚で洗濯機を回す、息子の顔を一時的に忘れる」などが表われ、薬を飲んでいなかったことも分かる。子供たちに母の認知症は治らないことを告げると「年ごととるんやけん」と協力を約してくれた。それでも部屋には腐った缶「コーヒ」とカビだらけのパン、酒を飲んで大声で歌う、酒

を買つ金を渡さないと「年金泥棒」と罵る、たまに「飯を炊くとべちゃべちゃのお粥。たまりず長男が炊飯器に「飯たくな!」と貼り紙した。

が、そのうち皆の帰りを外で待つ母の周りには「チンプンカンプンな話が面白い」と小学生や年寄りが集まるように。やがて老人ホームの案内があったが、子供たちと「ぎりぎりまでやってみるか」と自宅介護続行を決議。そして平成二十三年春、皆で探し回った揚げ句に公園のベンチに座っていた母を発見、期せずして母を囲んでのささやかな花見ができたのだった。

著者は最後に「長男と長女が」いつの間にか僕と母の心の支えになったこと、「他人の気持ちの分かる人へと成長している」ことを記し、「これも母が病気になったから」と感謝を表わしています。「こんな家族もあるんだとしても笑ってもらえれば」と書かれた素朴な文章が、家族の強さ、温かさを一層感じさせてくれます。

(株)日本文学館発行。文庫判 二〇〇頁、五〇〇円十税。港区ではオリオン書房(八幡屋一六・一〇一、TEL・FAX六五七二二二一〇四)などで取り寄せてもくれます。

無償の愛をテーマに

石炭倉庫で音楽劇『星の船』



「国境を越えた無償の愛が美しかった」。

フリースペース

七月七日、波除の自由空間「石炭倉庫」で音楽劇『上海爵士物語 星の船』が上演され、好評

シエー

でした。石炭倉庫を拠点に庶民の優しさや逞しさ、社会的メッセージを込めた演劇を世に問

たぐま

い続けるあんがいおまる一座のスタジオ公演。

一年前に他界した座付き作家・綾羽一紀さんあやはかすきの

原作・作詞、西川慶さいさんの作曲、リビート山中山さんの編曲、あんがいおまる座長の演出で、ヨ

ッシー原本さん、ゆうこさん、西川慶さん、あんがいおまるさんが演じました。

◆日本人編集者と中国人留学生の恋

——日本ペンクラブの月例総会で中国人留学
生ルイチェンを紹介された雑誌編集者・桜木仁
は、彼女に恋するようになる。が、彼女は若く
して死んだ父との思い出の中に生きていた。彼
女の母ユーファと父リーウェイの過去の恋、そ
してルイチェンの現在の恋が、交錯しながら展
開してゆく。ほどなく上海を訪れた桜木はル
イチェンと再会し、固く抱き合う。上海、西湖

シヤンハイ

シーフ

と夢のような旅を続ける二人。が、彼女には不
治の病にある娘アミンと、日本で研究生活を送

る夫がいた。戸惑う桜木。しかしルイチェンに
注ぐ桜木の「愛のかたち」は、やがて彼女の夫
や娘をも包むものへと膨らんでゆく。

◆世界中がやさしさに包まれたらー

国境を越え、時間を越えて紡がれる美しいフ
ラストーリーを通じて、「人を好きになって愛
が大きくふくらみ 世界中がやさしさに包まれ
たらどんなに素晴らしいだろう」という作者の
メッセージが伝わってきました。

『星の船』『西湖の子守歌』『未来』など十四
の劇中歌のどれもが歌詞・旋律ともに美しく、寄
せては返す波のように、物語を過去から未来へ、
未来から過去へと運んでくれました。ギター伴
奏で自作歌を披露した西川慶さんの透き通った
歌声、生真面目な日本青年・桜木を演じたヨッシ
ー原本さんの堅実な演技、美しい中国人母娘を
演じたあんがいおまるさんとゆうこさんの愛ら
しい表情や仕草や歌声も印象的でした。

そして領土問題などできくしゃくしている日
中関係と対比させてこの音楽劇を観た時、どの
芝居からも世の在り方を考えてもらおうといっ
一座の姿勢も自ら伝わってきました。

→無償の愛を主題に劇中歌も美しかった『上海

爵士物語 星の船』七月七日、波除の石炭倉

庫で(写真)はフラットで「未来」を歌った出演者

演劇ガイド

●あながいおまる一座『てんのじ村赤い』げんすい『元帥の耳かき』 「お前、寄ってたかってこの俺

に、よくも赤恥、かかせてくれたな」「わいの耳かきで、マッカーサーに小便ちびらせたるで」

。直木賞作家・難波利三なんばとしぞうさんによる大阪もの一作を語りで味わう。演出はあながいおまるさん。出演はあながいおまるさん、ヨッシー原本さん。『てんのじ村赤い』は九月七日(土) 十四

時半、八日(日) 十三時、十八時、『元帥の耳かき』は九月七日(土) 十三時、十八時、八日(日) 十四時半の各三回。料金は各一本前売千五百円、当日千八百円、一本通し前売千八百円、当日

三千二百円。問い合わせ・申し込みは会場の石炭倉庫(波除六・五・一八、JR弁天町駅から国道四二号を北へ直進、安治川堤防突き当たり

右すべ。 ☎六五八一・〇六八四)へ。

●夏休み(でも)OH笑い塾『トイレのミナトさん』ワンチをガマンする子はだれだあ〜

「夏休み(でも)OH笑い塾」に参加する子供たちによる舞台発表第二弾。放送作家の砂川一

茂しげさんが作・構成・演出を担当。「人を笑わせ

自分も元気に！」喜劇はチームワークと「ミニ二セッションやでー」と小・中学生たちを楽しく

集中的に「お笑い特訓」。その成果を披露。九月二日(日) 十四時から弁天町市民学習センター講堂で。入場無料、当日先着百名。 ☎八五七七・一四三〇同センター。

ライブ情報

●八幡屋出身ロックドラマー 桐田勝治きりたかつじさん 日本

のビジュアル系ハードロックバンドのトップを走り続ける人気バンドに所属。周りを元気づ

ける灯台のようなミュージシャンに」と演奏に磨き。港中学校出身▽八月十七日(土) 十七時

から大阪BIG CATで開催の「オオサカバトルロイヤル」に「ガーゴイル」としてゲスト出演予

定。出演は他にsadie、アライなど。



↑ 桐田勝治さんのヘッドロック

●三死のフォーク歌手ヘドロさん 毎月第一・

三木曜 千時サ・セラー(☎六二二・六四三七)▽毎月第三火曜 千時かつおの遊び場(☎

〇九〇・五八八・七〇二五)▽毎月第一火曜 二十時半ロージー(☎六二二・三九九九)▽

八月 十五日(日) 十三〜十三時太八音太小屋「レイニーまつり」出演予定▽九月八日(日) 十三時半〜二十時半アメリカ村サンホール

「ロージーまつり」出演予定。

●市岡元町在住の音楽ユニット「花☆キアラ」

九月十三日(金) 十八時半からあわや食堂(築港一・八・一七)で開催の「あわや夜会酒場」音楽ライブとフラメンコまつりに出演予定。出

演は他に地元のJ.P.U.F.さんら。



↑ 花☆キアラの演奏風景

平和のため

戦争体験

語り継ごう

今月の語り部

いぶしししょうぞう

猪伏 昌二さん(元田中佳民)

④



前編まで 昭和四(一九二九)年、北朝鮮の

ワシントン

元山に生まれた私は、中国大陸での戦火を背

アンダー・アーム・メー

景に、満州(現・中国東北部)東部の町・図們、

イェンチー

次いで延吉で育った。米英を相手に「大東亜戦

争」が始まる中、中学校生活は戦争一色だった。

昭和二十年八月、突如のソ連参戦に緊張が走る中で敗戦。現地人の略奪で日本人街は廢墟と化した。同月十八日に延吉小学校で始まった避難生活はソ連軍の進入で一気に緊迫。女性への凌辱は悲惨を極めた。〈本文は回想録『平和の空よ 永遠』から本紙が抜粋・再構成〉

忍従の1年はじまる

生きていくためブローカーも

延吉小学校での避難生活はソ連兵による日本女性凌辱など悲惨を極めました。その三日目の八月二十日、満人街にあった我が家は幸いにもあまり荒らされてないことが判り、帰宅できることになりました。が、この収容所生活からの解放は、同時に、引き揚げまでの筆舌に及べない忍従の二年間の始まりともなりました。

◆運よく守られた家財に安堵

フレンチ・ソフ

私たちの住居は王毛林という満人の富豪の

屋敷の中にありました。高さ二五センチ、厚さ四〇

センチもの分厚い土塀に囲まれ、広い庭を真ん中に

四軒ある借家の一軒でした。我が家ではブリキ

箱や木箱に貴重品を入れ、裏の畑に埋めておいたのですが、それらは荒らされていませんでした。その一方で、前庭には広く大きい防空壕を造り、行李や箱をその中に保管していました。が、目ぼしい物はほとんど盗られていました。が、家屋の中は大家さんの睨みが効いたのか、物色されずに残っていました。全体として、日本人街の惨状に比べれば良くなされたものだと思えて安堵したものです。

◆朝鮮青年同盟が監視

そうして落ち着いたのも束の間、帰宅したことを誰から聞いたのか、朝鮮青年同盟の青年たちが回って来るようになりました。彼らは有無を言わず「包」を出さなさいと命令します。何本が差し出すと、刃先を五センチほど整で叩き落とし、凶器として使えなくなったことを確認して出て行きました。他に「ピストルはないか」「日本力は」「手榴弾は」などと執拗に調査を繰り返し、それは半月ほども続きました。

おな

因みに、この同盟は血気盛んな朝鮮青年たちを戦勝気分の中で組織したもので、敵国だった日本人を監視すると共に、無政府状態にある国

内の治安にも貢献したようです。

◆粗暴だったソ連兵

そのつら、今度はソ連兵が家に入ってきたようになり、ソ連兵が「ヤポンスキー（日本人）が塀の中にいる」との密告を受けての行動だったようです。土足のまま上がり込み、鉛筆、物差し、消しゴム、歯ブラシ、歯磨き粉、石鹸など、目につく物は何でも長靴に入れ、「ハラショー（さようなら）」と引き揚げて行くのです。

ある日、「少尉」の肩書きのある兵がやって来ました。それなりに勉強はしているように思いましたが、「時計がどうしても欲しい」と言い出して中々帰らないので、父は大事にしまってあったエルジンの懐中時計を渡してしまいました。

彼はよく向口薬の実を器用に食べていましたが、部屋に殻を散らかされるのには参りました。ポケットには葉タバコを入れており、適当に新聞紙などで包んで、くろくろと巻いては吸っていました。また、寒い所で生活しているためか、アルコールはどんなにきついても平気で飲むようで、日本軍の携帯燃料の缶に入ったピンク色のメチルアルコールも平気で飲んでいました。

←満州部分図。牛莊地の元山、少年期を過ごした図們、引き揚げまでいた延吉などが見える



そのソ連兵たちも、九月に入ると訪問回数ばかり少なくなりました。

◆退去通告つけ家財処分

そんな時、大家さんから呼び出しがあり、行ってみると「今まで面倒をみてきたが、日本人を置いておくのは時代的に難しくなった。一日も早く移転して欲しい」との退去通告。覚悟はしていましたが、これは堪えました。転宅となれば、相当な量にのぼる家財のほとんどを処分

しなければならなかったからです。

悩んだのが貴重品の処理でした。位牌と過去帖だけは「何としても日本に持って帰らなければ」先祖様に申し訳がない」と家族皆で心に期するものがありました。掛け軸や壺、毛皮、巻物、羽織袴、古銭などは持ち歩けば荷物になるし、かといって価値判断のできない他国人には猫に小判、一束三文に踏み倒されるのには目に見えています。が、迷った末、きっぱりと手放すことに皆で腹を決めました。そして処分した物はすべてソ連の軍票に替えていきしました。

この軍票は九月の初めごろから流通するようになった紙幣で、硬い紙に粗雑な赤と青の図柄が刷り込まれた、いかにも安っぽい造りでしたが、あとあとこれに悩まされることになるのは、その時は思ってもいませんでした。

そして整理が進んだ頃、ようやく東本願寺の隣に赤煉瓦の家が見つかり、そこへ二世帯が住むことになったのです。

◆遺骨と骨壺が山積み

ところで、このころ聞いた話では、お寺の住職やその家族は、全貴が八月十五日の夜の便で

新京に移転したのです。延吉神社の神主の家族も延吉を離れたといいます。身を処す速さに驚いたのですが、終戦の報は彼らの間では前もって共有されていたのかも知れません。情報を得た者や得られなかった者との差を今更ながらに痛感させられた出来事でした。

同じ頃、衝撃的な光景を目にしました。東本願寺の前庭に、その寺が預かっていた夥しい遺骨が、かち割られた白い陶器の骨壺と一緒に山積みされていたのです。桐の骨箱は全て持ち去られていましたが、それは、やがて来る冬の燃料に使ったためだったでしょう。日本軍の横暴がいかに地元の民衆を苦しめたか、その怨念が駆り立てたと思われる行為でしたが、その異様な光景は未だに私の目に焼き付いています。

◆日本兵捕虜を相手にブローカー

ともあれ、家財を売ったお金だけでは家族八人の生活の維持は不可能であり、何かをしなければ食べていけませんでした。

その頃、ソ連軍の捕虜になった日本兵が東満(満洲東部)や北朝鮮の各地から連日貨車で延吉駅へ運び込まれては、マンドリン銃を持った

ソ連兵に監視されながら延吉捕虜收容所へ連行されて行きました。若い兵隊は既に南方戦線へ飛ばされており、戦争末期に臨時招集された年輩者が多く、みな疲弊し、どこにか歩いているような兵隊もいました。五列縦隊の六十人ほどが一梯団で、一回に千人くらい、多い時には千数百人ほどだったのではないのでしょうか。

彼らは恐ろしく耐えがたい空腹から何かを食べたい一心で、自分の持ち物を売るのに必死だったに違いありません。そんな兵隊たちの思いを満たすため、というより、生活のかかったところとしては、それに付け込む形で、ブローカーまがいの商売を始めることにしたのです。

私はまだ若くて小柄で小回りが利き、また同じ日本人同士といつことで意が通るので、ソ連兵の目を掠めては隊伍の中へ入り込み、牛革のバンド、純毛の靴下、飯盒、雑囊、軍靴など、何でも片っ端から買わせてもらいました。護送が始まる前に倉庫から持ち出した新品の服装や所持品で身の回りを固めるような抜け目のない兵隊もおおし、「僕、早く高く買ってほしいかい」と催促されたりもしました。

一方、そうした捕虜の隊伍の外では朝鮮人や満人が待ち構え、私が捕虜から買い取った品物を買ったために待っていてくれました。捕虜相手に食べ物売る商人も多く集まっていたのですが、私の方がよっぽどいい目をしたように思います。時々、監視のソ連兵から威嚇射撃を食っていたが、本気ではなく、こちらが小輩であることに免じて見逃してくれたようです。

◆行商を始める

しかし、そういった間にも寒さは日一日と加わり、十月になると零度以下の日もありました。そんな中、捕虜相手に繁盛していた私のブローカー業が先細りになってきたのを見て、父はりやカーを借りて八百屋の行商を始めました。朝鮮人や満人から野菜や肉などの生活必需品を仕入れては、難民のいる所へ売りに行ったのですが、日本人同士といつことで、安心して買ってもらえました。ある時など、「病気で死んだ馬の肉を売ってくれ」と現地人から頼み込まれたので、「いくらなんでもそれだけは」と断わりましたが、「日本人は食い物に困っているのだから」と買って食べる」と言わなければからの態度が未だ

に心に残っています。

また何日か二回は延吉刑務所へ売りに行きましたが、そこには囚人から大勢の人が避難してきており、地元の人もたくさんいました。彼らが暮らしていたのは囚人を収容する個室で、そこでは連兵による妨害もなく、いわば「安全地帯」だったため、馴染みの客もでき、よく品物を買ってもらえたのを覚えています。

この他、タバコ巻きを始めたり、赤飯や万頭やオカフのおにぎりなどを作って売ったり、この時の延吉の日本人は皆、小さい子供から婦女子、年配者まで、とにかく生きるため、飢えをつぶすためなら何でもやるという状況でした。

◆越冬に燃料確保の苦労

それらの季節、つまり十月初旬にもなるころ雨が降ったあとにはすぐに薄氷が張り、下旬になると雪が降り出し、川の凍結も始まり、やがて氷上を歩いて通行できるのは川になります。当然ながら生鮮物はとしくなり、行商で扱えるのは専ら漬物や豆腐や肉類だけになって、生活はさらに厳しさを増していきました。

加えて大変なのが、越冬のための燃料確保で

←戦後の延吉市河南地区。フルハト河に薄氷が張る10月初旬、私と弟は冬季の燃料になる雑草を河川敷から刈り取り、延吉橋を渡った



した。例年は石炭を馬車で買ってきて冬の準備をしたのですが、敗戦後のこの転居先にはオンドルもペーチカもストーブもなく、かといって火鉢や炬燵では大陸の冬を乗り越える暖は

取れませんでした。そこで目を付けたのが、夏場、ソ連の戦車部隊が数週間駐屯していたフルハト河の南側河川敷に繁茂する背の高い雑草でした。そこまでは誰も気が付かなかったのですが、それは燃料として実に手頃でした。

私は弟と二人で二日に二〜三回、ドンコロス^{たぐさ}を携え、できるだけ背丈が長く太いのを刈り取り、パンパンに詰め込んだでは荒縄で背負って帰りました。西からの空つ風が強い時などは、南北に架かる延吉橋の上で、重くて大きなドンコロスが押されて左から右へよろけましたが、根性で踏み張りしました。それでも前庭に積み上げていく雑草の高が毎日増えるのが楽しみで、それがかなりの高さになった時「やれやれひと安心」と皆で胸をなでおろしたものです。

◆満蒙開拓青少年義勇軍と出会う

ところで、十月から始めた行商では延吉刑務所へよく行きましたが、そこには「満蒙開拓青少年義勇軍」の隊員が駐屯していました。十一月下旬にはたまたま朝の品呼に出くわしたのですが、そこで見たのは同世代とてあまりに辛く悲しい光景でした。

(つづ)

ミニ文化案内

●交通科学博物館・夏休みイベント「TRAIN MODEL COLLECTION」交通科学博物館の模型たち

九月一日まで開催中。開館以来收藏してきた鉄道模型の中から約一〇〇〇両・二〇〇種類を「フタシツク」「外国車両」「サイズ」など様々なカテゴリーに分けて紹介。このうち「デザインコレクション」では、スタイリッシュやイケメンなどの部門を設け、「成田エクスプレス」「ピット」「ゆふいんの森」などを展示。「ヒストリーコレクション」では創業期の二台機関車から国鉄時代の特急列車、現在活躍する通勤列車や特急列車までをHOGEEジで展示。「スピードコレクション」では新幹線のO系から最新型までを様々なサイズの模型で紹介し、HOGEEジによる往復運転も。またトレインモデルズ「ランウェイ」ではNゲージ模型を会場内の一番目立つ花道で音や映像を交えて走らせる。他に「モエルシップ友の会作品展」(紙類だけで作成した緻密な船のペーパークラフト作品展。海上保安庁の「しゅつぎょう」「ひだ」「しゅぎょう」などの大型巡視船や巡視艇、

測量船、また商船や貨物船、さらには大阪港を

パレードする小型巡視艇のジオラマも。八月三

十一日まで開催中)「おとし列車と貴賓室」(皇

族などが乗車されるおとし列車や貴賓室を紹介。

八月十八日まで第八室で延長開催中)「ミニ50

O系新幹線運転会」(八月二十四日・二十五日)⑧

の十時半〜十八時に屋外展示場で。途中休憩あり。雨天中止)「蔵出しヘッドマーク展」(時代

の節目や記念行事の際に列車の先頭に取り付け

られるメモリアルなヘッドマークを收藏品の中

から約一千点展示。八月二十四日〜十二月十

四日)などの催しも▽十〜十七時入館、月曜休

館(祝日なら開館し翌火曜休、火曜も祝日なら

→交通科学博物館の模型たち」の展示風景(上)で

「蔵出しヘッドマーク展」に展示予定の「おとし

さが東線開業5周年ヘッドマーク」⑨



振替休なし、春・夏休みは開館。高校生以上四

百円、四歳〜中学生百円。JR弁天町駅すぐ。

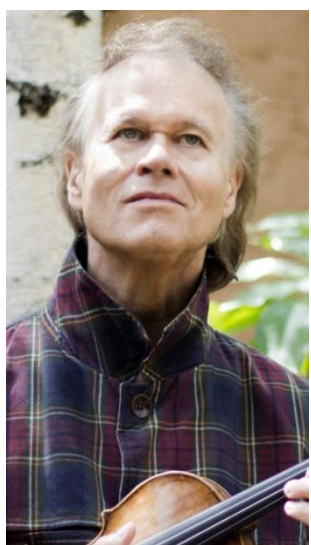
☎六五八一・五七七一。

●港図書館

①図書展示「こどものほんだな」展Ⅱ八月三十一日まで開催中。昨年出版された子どもの中から図書館おすすめの本を展示。子どもも大人も楽しめる本が一杯②「図書展示・第四回One Book One Osaka」リストに選ばれた絵本展Ⅱ九月十三日(月祝)まで開催中。色々な絵本を手にとってお気に入りの選ぶ。投票は十二月二十七日(金)まで③あかちゃんのおたのしみ会Ⅱ毎月第一金曜日(九月は八日)の十一時〜十二時半、じゅうたんコーナーで。赤ちゃんと保護者を対象に、赤ちゃんが絵本に親しめるよう工夫。申込不要④図書ボランティア募集Ⅱ港区内の高齢者施設「ザイオン」愛港園が活動場所。九月十三日、二十七日、十月四日、十一日(各金曜)の四回は午前十時〜十二時に大阪市中央図書館(西区)で講座。活動見学などⅢ回は港区内で⑤おたのしみ会Ⅱ毎週水曜十五時半〜十八時、じゅうたんコーナーで。幼児を対象に、絵本の読み聞か

せや紙芝居、パネルシアター、手遊びなど。申込不要▽いずれも詳細は港図書館（☎六五七六・一三四八）へ。

●関西フィルハーモニー管弦楽団「いずみホールシリーズ」第31回 「濃厚な浪漫美くフレンチ&ロシアンロマンス」と題し、同フィル音楽監督で指揮者&ヴァイオリニストのオーギュスタン・デュメイさんと、彼の薫陶を受ける若きチエリスト、アダム・クシエシヨヴィエツさんが、サン・サーンスの珠玉のプログラムを贈る。演奏曲目は、①「ミューズと詩人たち」作品132（ヴァイオリン：A・デュメイさん、チェロ：A・クシエシヨヴィエツさん）②チェロ協奏曲第



→指揮とヴァイオリン独奏を担当する関西フィル音楽監督オーギュスタン・デュメイさん（©Thibault Daegunza）

Thibault Daegunza

←チェロ独奏を担当する若きチエリスト、アダム・クシエシヨヴィエツさん



1番イ短調作品33（チェロ：A・クシエシヨヴィエツさん）③交響曲第2番イ短調作品55。九月八日（日）十五時からいずみホール（JR環状線「大阪城公園駅」徒歩三分、同「京橋駅」南口徒歩八分、地下鉄「OBP駅」徒歩五分）で、S席五千円、A席三千五百円（全席指定・消費税込）。無料託児サービスあり（申込締切八月二十四日、先着三十名）。☎六五七七・二三八一。

●井天町市民学習センター「おやこでわっちゃんちゃ体験教室」

普段はなかなかできない体験を夏休みに親子で。八月二十五日（日）十時半〜十五時半に同センターの各教室で開催。①おやこでわっちゃん「笑いヨガ」（無料、定員あり、予約優先）②みんなで楽しく☆ビップホッ

プ（無料、定員あり、予約優先）③ボクササイズに挑戦！（無料、定員あり、予約優先）④茶

で和む「おやこ茶道教室」（二服五百円、定員あり、要予約、申込締切八月十八日）⑤やってみよう「見る」とは「手話」（無料、定員あり、予約優先）⑥アンニョン楽しいハングル（二百円、定員あり、予約優先）⑦手作りおもちゃ☆アラカルト（二百円、定員あり、予約優先）⑧笛の不思議教室（無料、希望者にはテキスト二百円、定員あり、予約優先）⑨お花で作るフレイクスーツ（二百五十円、定員あり、予約優先）⑩作って飛ばそう「スーパードロケット」（二百円、定員あり、予約優先）⑪トールペイントでコースター（二作二百円、定員あり、予約優先）⑫変身〜キラキラマスク作り（二作三百円、定員あり、予約優先、申込締切八月二十二日）⑬ふしぎカワイイ連鰯（れいお）づくり（無料、なくなり次第終了、当日先着）⑭押し花小物づくり（二作百〜五百円、なくなり次第終了、当日先着）⑮タイルに不思議☆色あそび（二作五百円、定員あり、当日先着）⑯ママと一緒に「バルーンアート」（五百円、定員あり、予約優先）⑰お

や「マジック教室」(無料、定員あり、要予約)

▽開催時間:回数講師:持ち物など(詳細や申込は同センター(☎六五七七・一四二〇)へ。

●**弁天町市民学習センター「おや〜で阿波踊り体験教室」** おなじみ「オーク弁天寄席」の

笑福亭學光さん(徳島出身の落語家)と旭堂南麟さん(大阪出身の講師)率いる「はなしか

連」のリードで夏の風物詩「阿波踊り」のコツを親子で楽しく学べる。八月十八日(日) 十時

〜十一時半に同センターで。定員は親子三十組六十名(申し込み先着順)▽体験の後は、同日

十三・十五時にオーク広場(オーク2000一階)で開催される「オーク弁天寄席・納涼スヘシヤ

ル阿波踊り大会」(参加無料。申込不要)で練習の成果を発揮できる▽詳細は同センター(☎六



→笑福亭學光さん(中)と旭堂南麟さん(右)

五七七・一四二〇、FAX六五七七・一四三三)

△申し込みは①電話②ファックス③いちようネット(www.manabi-city.saka.jp)のいずれかで。

●**弁天町市民学習センター「につばんのうたこのつた** 次世代へ歌い継ぎたい日本の歌

を、本格的なオヘア歌手の歌声と共に、背景やエピソードを学びながら楽しむ「レクチュアコ

ンサート」シリーズの三回目。実りの秋、祭りの秋、紅葉に輝く秋、そして冬に向かう寂寥の

秋…。情緒に富んだ「につばんの秋のつた」をたづねて。出演はソプラノ:小堀史絵、バリト

ン:橘茂、ピアノ:金岡優子。企画・構成:司会:太田道宏(関西フィルチェロ奏者)。曲目は

「赤とんぼ」「つき」「小さい秋みつけた」「宵待草」「村祭」「曼珠沙華」「虫のこえ」「紅葉」「まっ

かな秋」「里の秋」他。九月十八日(月祝)十五時から同センター講堂で。料金は一般千五百円(前売

千二百円)、小・中学生八百円。定員百二十名先着順▽詳細は同センター(弁天一・二・三・七

〇〇オーク2番街七階、☎六五七七・一四二〇、FAX六五七七・一四三三)△申し込みは①

来館で前売チケット購入②電話予約(氏名・住所・電話番号)③インターネット予約(いちようネット)で検索→講座・イベント情報→音楽→希望の講座を選んで申込のいずれかで。

●**弁天町市民学習センター・弁天シネマ倶楽部『二人でお茶を』** 「心に残る名作映画を低料

金で多くの市民に」と同センターが企画した上映会の三十回目。大恐慌たった中のアメリカ

で展開する歌あり踊りあり笑いありの傑作ミュージカルコメディ。―夢の舞台上立つため

にッスンに励むナネット(ナン)。しかし不況により舞台の上演は難航していた。座長のフリー

は「役をあげるから二万五千ドル立ててくれ」とナンに頼み込む。舞台がなくなれば芝居仲間



→弁天シネマ倶楽部『二人でお茶を』から

たちも仕事を失ってしまつ。自らの夢と仲間のため、ナンは大金持ちの叔父に出資をお願いするが、この叔父さん、実は株の暴落で一文無しになっていた。監督はデヴィッド・バトラー。

出演はドリス・レー、ゴードン・マクレー他。一九五〇年アメリカ映画。カフー、九四分。九月二十八日(土)十時と十四時から講堂で。料金は一人一回八百円(前売五百円)。定額は各回先着百名。当日十一時三十五分頃からロビーで無料ライブ(彩の会)による銭太鼓演奏を予定。詳細は同センター(☎六五七七一・四二〇)へ。

●ガットネロ 市岡在住のシャンソン歌手・松浦田美子さん主宰の音楽喫茶。毎月様々な企画。

①「松浦田美子のシャンソン百物語」八十一回「美輪明宏作品を歌つて」題しての特別篇。松浦



↑松浦田美子さん(右)市岡在住

田美子さんが歌い、藤田稔さんがピアノ演奏。

九月七日(土)十九時から中央公会堂小集會室で。前売 千五百円、当日二千円②〇〇円オーケストラセッションサート宮崎剛さんピアノを

音楽監督に、田所千佳さん(ピアノ)、溝淵よ

かさん(ヴァイオリン)、井上春緒さん(クラリネット)、大町剛さん(チェロ)、小坂美佐さん(朗

読)、中島恵美さん(ソプラノ)、合唱団CET(合唱がクラブレシジョン。九月十八日(月)祝十

五時からいずみホール(JR大阪城公園駅、地下鉄〇B駅下車)で。前売二千五百円、当日四千

円(座席指定。問い合わせ:チケット取扱いは中井音楽事務所(☎〇七七一・四七四・二三〇)③

「クラシック・カフェ」三十八回(九月六日)金十九時。古典音楽の魅力と題し、吉田田香

さん(チェロ)、多田安希子さん(ピアノ)がバッハ、モーツァルト、ベートーヴェンなどを演奏。

会費 千円(定員十五人、要予約)▽ガットネロは天王寺区下本町六・二・三七、地下鉄谷町九

丁目駅①出口、☎六七六七・〇〇二。

●シネ・ヌーヴォー「生誕百年記念 織田作之助と仲間たち」

大阪を代表する作家・織田作之助

↑一九五〇年代の銀座風俗と森繁久彌のナレー

ションも話題を呼んだ『銀座 千四帖』⑤と、米軍基地の街のチンピラの恋を通じて敗戦国

のみじめさを浮き彫りにした『豚と軍艦』④



は一九三三年十月、大阪市南区(現天王寺区)

に生まれ、一九四七年、三十三歳で死去。庶民の喜怒哀楽を描く名手であり、今なおオダサク

の愛称で愛され続けている。太宰治、坂口安吾、石川淳と共に「新戯作派」「無頼派」と呼ばれ、

映画監督・川島雄三と共に「日本軽佻派」を

結成。代表作に小説『夫婦善哉』『世相』『土曜夫人』、評論『可能性の文学』など。現在、大阪文学振興会により「織田作之助賞」が設けられて

いる。今年の生誕百年を記念して、原作の全

作品と共に、彼の「仲間たち」にまつわる作品
合わせて三十八本を特集上映。オダサク・ワー
ルドの魅力と大阪文化の土壌に迫る。八月二十
日まで上映中。八月十五日以降の上映作品は、

①織田作之助原作『螢火』②川島雄三監督『
銀座 千四帖』③赤坂の姉妹より 夜の肌
『女は度生まれる』④しとやかな獣⑤三村
昌平監督・脚本『豚と軍艦』⑥エロ事師た
ちより 人類学入門⑦経営学入門 よりネ
オン太平記⑧藤澤桓夫原作『花粉』より 空



→性を生業とする男を怪演して小沢昭一が主演
男優賞を総なめにした『エロ事師たち』よ
り 人類学入門⑨とミヤノ蝶々ら関西漫才
人総出演の人情喜劇『漫才長屋は大騒ぎ』⑩

かける花嫁』⑤秋田實原作『漫才長屋は大
騒ぎ』漫才長屋に春が来た⑥坂口安吾原作『
不連続殺人事件』『白痴』⑦太宰治原作『グ
ッド・バイ』⑧女性操縦法』『フイヨンの妻
桜桃とタンポポ』⑨海外作家原作『カフマー
ゾフの兄弟・完全版』。当日一般千四百円。前売
五回券（五千円）など割引券あり。上映時間な
ど詳細は同館地下鉄九条⑩出口歩三分、⑪六五
八二・一四二六へ。

ひとくちPR

（1行11税込1000円）

●何でも書きます、まともです 手紙・案内・
報告・宣伝・司会等の文案。自分史・社史・団
体史等の聞き書き。新聞・広報・書籍・会報等
の取材・編集。 ☎六五七一・四六三六港新聞・
飯田編集事務所。

●アルバイト急募 週一回の新聞配達と月一回
の集金を都合のいい時間に。港民主商工会（夕
四二・一〇・二六、☎六五七一・七七八七）。

●放課後・春夏冬休みは学童保育へ 入所児童
集。見学無料・体験OK。家族的雰囲気。区内に

二カ所。 ☎六五七五・〇三三五ありんこ。

●ボクササイズでシェイプアップ！ 女性も
小・中・高生も楽しく練習。親切指導。家族的
雰囲気。月会費五千円（無期限十枚つりりチケ
ット五千円）。入会金一万円を〇金半額。練習日
は月・水・金の十九時半～二十一時半。港ホク
シングジムは三先二・三・九（地下鉄朝潮橋
駅南側の歩道橋すぐの裏通り）。 <http://ameblo.jp/minatogym/>

読者プレゼント

※いずれもハガキに今月号の感想とプレゼント
名を書いて20日必着で港新聞へ。

●交通科学博物館（三三文化案内）招待券をへ
ア2組に。

●関西フィル「いすみホールシリーズ31」（三
三文化案内）招待券をへア1組に。

●あながいおまる一座『てんじ村赤い』『元師
の耳かき』（演劇ガイド）招待券をへア2組に。

●『母ちゃん 飯たくなー』（読者が推せん・図
書ガイド）を1名様に。